

平成25年10月30日開催

石狩市教育委員会会議（10月定例会）資料

＜報告事項＞

- 1 平成25年度全国学力・学習状況調査結果について（別冊）
- 2 奨学金に関するアンケートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 3 科学の祭典 i n 石狩 2 0 1 3 の開催について・・・・・・・・・・・・ P 2

石 狩 市 教 育 委 員 会

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果

～石狩市における調査結果の概要～

この調査結果は、国及び北海道が公表した「平成25年度全国学力・学習状況調査～調査結果のポイント」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語、算数・数学、）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となり、平成24年度は、平成22年度同様の形式で実施されました。

本年度は、平成19年度～21年度と同様、全国すべての小中学校を対象として実施されました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」（<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm>）

5. 調査実施日

平成25年 4月24日（水）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校） 562名 中学校 8校（市内全校） 536名

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

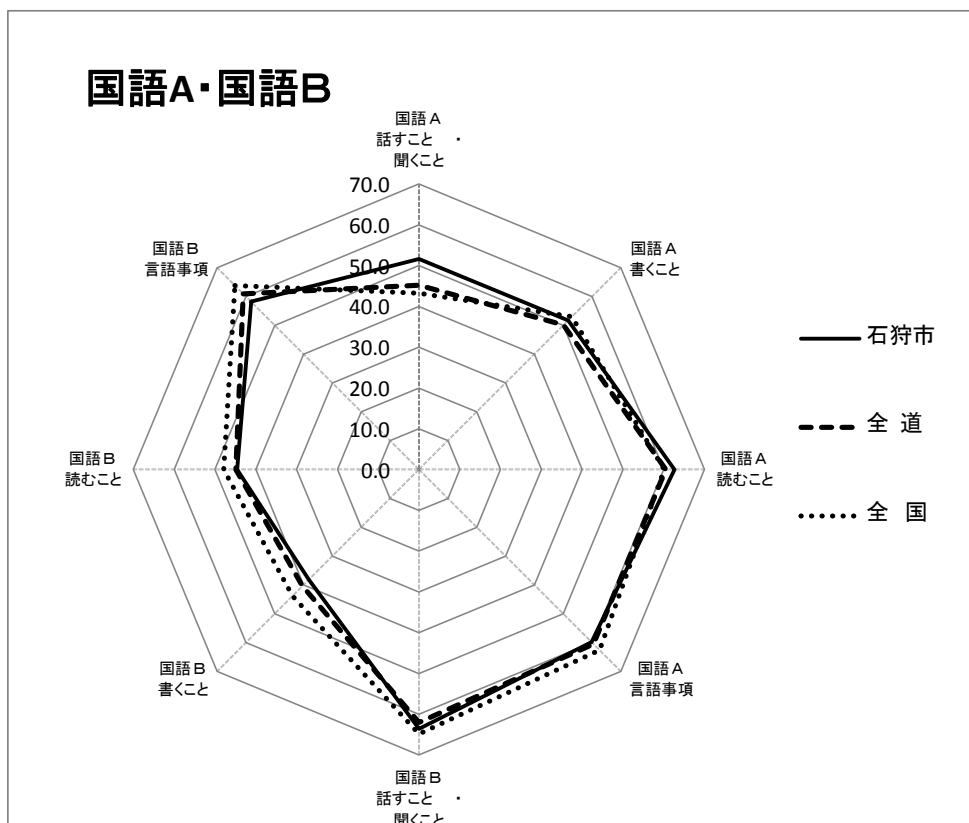
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	11.3問/18問	62.7%	4.9問/10問	49.4%
全 道(公立)	10.9問/18問	60.4%	4.6問/10問	46.4%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ上位)	同様	(ほぼ下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ上位)	同様	(ほぼ下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆				☆	○								☆	○				

相当高い … 7ポイント以上の範囲 ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
 高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲 | やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
 やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲 | 低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲 | 相当低い … -7ポイント以下の範囲
 同 様 … ±1ポイント未満の範囲内

□ 国語 領域別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 国語はA・Bとも全道と同様で、全国との差も縮まりました。これまでの各学校の取組が、確実な成果に結びついてきていると考えられます。
- 選択肢を選ぶ問題の正答率は高く、全国平均よりも高い設問(28問中6問)も見られました。
- 漢字の読みでは一部成果も見られましたが、漢字の書きでは、まだ、全国との差が見られ課題と言えます。
- 無解答率は全道と同様で、全国よりもやや高い傾向を示しました。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

以下に示す内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を読んだり書いたりする。
- ・ことわざの意味、文の定義、接続語の持つ働きを理解する。
- ・目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く。
- ・広告の編集の特徴や俳句の情景を捉える。
- ・スピーチの表現を工夫する。

設問数は、18問です。

【各領域別傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べ高く、全国より相当高い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国と比べてもほぼ同様（上位）の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と同様で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	7 スピーチの表現を工夫する	選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する	51.6%	45.2%	45.2%
書くこと	4 ア 目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く	71.9%	70.3%	72.4%
読むこと	5 イ 広告を読み、編集の特徴を捉える	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	77.6%	72.6%	71.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 － (3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	めずらしい植物を採集する	70.6%	62.9%	64.9%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	3 二 (1) 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	接続語を使って1文を2文に分けて書く	19.8%	20.2%	23.4%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 二 (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	魚を <u>やく</u>	63.2%	67.0%	72.4%
	1 二 (2) 委員会を <u>もう</u> ける	委員会を <u>もう</u> ける	45.4%	49.6%	53.5%

〈指導の改善にあたって〉

- ・目的や意図に応じ、適切な文を選択する設問には全国平均を上回る成果が見られた半面、文章を書く設問には課題が見られます。
- ・これまで同様、目的や意図に応じて、必要となる事柄を整理して簡潔に書く指導の強化が求められます。そのためには、意味・内容が簡潔明瞭に伝わる、短い一文を書く指導を、日常の教科指導に盛り込み、継続する必要があります。
- ・漢字を正確に読んだり書いたりする力を、さらに定着させる必要があります。そのためには、児童の意欲を保ちながら、繰り返し定着状況を確認する機会を設けるなどの工夫が必要です。

国語 B （主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・相手の立場や意図を捉えながら聞き取り、適切で効果的な助言をする。
 - ・目的に応じ、適切に書き加える。
 - ・目的や意図に応じて、複数の内容を関係付けながら、自分の考えを具体的に書く。
 - ・推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由、読み方の違いを捉える。
- 設問数は、10問です。

【各領域別傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「書くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（下位）で、全国に比べ低い傾向を示しております。
- ・「読むこと」の領域は、全道と同様で、全国と比べやや低い傾向を示しております。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道に比べほぼ同様（下位）で、全国に比べ低い傾向を示しております。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 — 相手の立場や状況を感じ取って聞く	助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する	79.40%	76.9%	78.8%
読むこと	3 ウ 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く	44.30%	41.9%	44.6%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	2 — 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く	【ずかんの一部】の中から花火師の苦労が具体的に書かれている内容を引用して書く	17.30%	22.0%	26.2%
読むこと	3 二 2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える	2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する	45.40%	48.8%	51.9%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2 — 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える	「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える	58.20%	60.9%	63.8%

〈指導の改善にあたって〉

- ・昨年度と比べ、全道・全国との差は縮まってきていますが、「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、今後も引き続き改善の必要があります。
- ・目的や意図に応じ、資料を的確に読み取り、必要な内容を適切に引用して書く指導の充実が求められています。
- ・複数の推薦文について、その違いを明確にしながら読み比べる指導の充実が必要です。

教科に関する意識 （質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度と同様の傾向です。全国57.9%、全道57.5%に対して石狩市は59.0%で、それぞれ全国比1.15%、全道比1.5%高い結果となっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より増加しています。全国91.0%、全道90.8%に対して、石狩市は94.1%で、それぞれ全国比3.1%、全道比3.3%高い結果となっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より減少しています。全国79.9%、全道78.8%に対して石狩市は78.2%と、全国比1.7%、全道比0.6%とそれぞれに低い結果となりました。

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

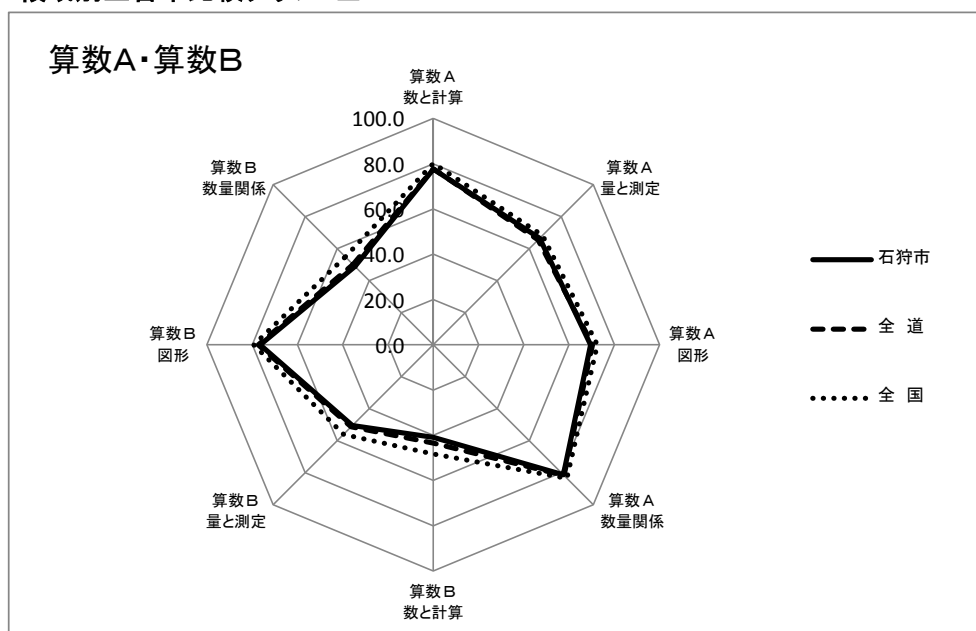
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	14.7問/19問	77.2%	7.6問/13問	58.4%
全 道(公立)	14.2問/19問	74.9%	7.0問/13問	54.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ)上位	同様	(ほぼ)下位	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ)上位	同様	(ほぼ)下位	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆				☆	○							☆		○				

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

□ 算数 領域別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 市内各校の正答率については、全道と同様の傾向を示し、全国との差が縮まりました。
- 無解答率については、A問題では、全国(1.7%)と同様で、全道(1.9%)より若干少な目でした。B問題では、市内各校の平均は8.2%で、全道(8.0%)全国(6.3%)よりも若干多い結果でした。
- 小数・分数の四則計算については改善が見られます。反面、整数の減法に誤答が見られ、見直しの習慣化が必要です。
- 示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのか筋道を立てて表現することに課題があります。

算数 A（主として「知識」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・概数や単位量の計算、整数、小数、分数等の四則計算をする。
- ・1 a（アール）や台形の面積を求める。
- ・三角形の作図と円柱の展開図の辺の長さの関係を理解する。
- ・割合の比較量と基準量の関係を理解する。
- ・棒グラフの読み取りをする。

設問数は19問です。

【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「図形」の領域は、全道と同様で、全国と比べやや低い傾向を示しております。
- ・「数量関係」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	1 (6) 同分母の分数の加法の計算をすることができる	2と5/7+1と1/7を計算する	92.30%	89.2%	88.9%
数と計算	3 余りのある除法の場合において、被除数を求める式について理解している	除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ	72.60%	67.6%	71.6%
量と測定	5 (2) 1 a（1アール）の面積と等しい正方形の辺の長さを理解している	1 a（1アール）と等しい面積になる正方形の辺の長さを選ぶ	53.60%	51.3%	52.3%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	2 示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理することを理解している	一万の位までの概数にしたときに、20000になる数を選ぶ	50.7%	55.1%	60.2%
図 形	7 (2) 円柱について、底面の円周の長さと展開図の側面の辺の長さが対応していることを理解している	展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く	60.0%	62.3%	66.3%
数量関係	8 (1) 割合が50%のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	200cmの50%に当たる長さを選ぶ	72.6%	73.8%	76.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・「数と計算」では、同分母の分数の加法、除数と商と余りから被除数を求めることについては、高い成果を示し、全国の平均も上回っています。反面、概数の処理については、課題が見られます。四捨五入の活用と定着を図る必要があります。
- ・「図形」については、辺や面の関係を定着させる必要があります。また、展開図を基にした立体の関係を理解させる指導の強化が必要です。

算数 B（主として「活用」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・複数の処理の仕方を解釈し、一方が合理的な処理である理由を記述する。
- ・図形を観察して筋道を立てて考え、面積の関係を記述する。
- ・示された条件を基に、数値の求め方を記述する。
- ・グラフから適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する。

設問数は13問です。

【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ相当低い傾向を示しております。
- ・「量と測定」の領域は、全道と同様で、全国と比べ低い傾向を示しております。
- ・「図形」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
量と測定 数量関係	2 (3) 表から数値を適切に取り出して、二つの数値の関係が比例の関係であることを記述できる	示された実験の結果から、ふりこの長さ10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く	31.90%	30.3%	35.2%
量と測定	3 (2) 示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く	40.90%	38.0%	42.7%
数量関係	5 (1) 棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフの説明に対して、その説明がグラフのどの期間を示しているのか、正しいものを選ぶ	73.80%	73.1%	76.1%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算 数量関係	1 (1) 情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができる	残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く	44.70%	48.8%	51.0%
量と測定 数量関係	2 (1) 示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している	示された式の値が何を示しているのかを書く	41.10%	44.9%	51.7%
数と計算 量と測定	4 (1) 単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数が、ワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	32.70%	35.7%	43.1%

〈指導の改善にあたって〉

- ・示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて、同様の問題の演習を多く取り入れる等の定着に向けた取り組みが必要です。
- ・基準量、比較量、割合の関係を図に表したり、□を用いた式で表したりして、数量の関係を捉える活動の充実が必要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国66.2%、全道63.6%に対して石狩市は65.4%で、全国比0.8%低く、全道比1.8%高い結果となっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国92.1%、全道90.8%に対して石狩市は91.6%で、全国比0.3%低く、全道比0.8%高い結果となっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国80.2%、全道76.5%に対して、石狩市は80.1%で、全国と同様で、全道比3.6%高い結果となっています。
- ・「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は、全国77.4%、全道75.3%に対して石狩市80.1%と、全国比2.7%、全道比4.8%高い結果でした。
- ・「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国88.8%、全道86.8%、石狩市89.5%で、全国比0.9%、全道比2.7%高い結果でした。

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

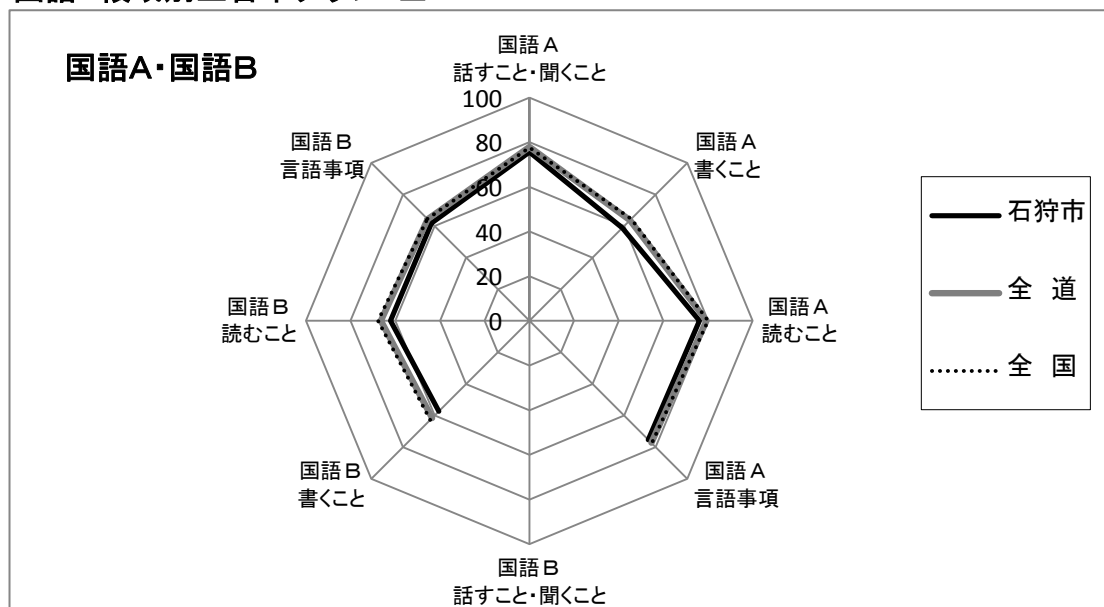
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	24. 4問/32問	76. 4%	6. 1問/9問	67. 4%
全 道(公立)	24. 3問/32問	76. 0%	6. 0問/9問	66. 2%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位同様)	同様	ほぼ同様 (下位同様)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位同様)	同様	ほぼ同様 (下位同様)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全 国 ; ☆					☆	○							☆			○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 漢字・語句等はほぼ定着しており、日常的に活用に努める必要があります。
- 無回答率は全道・全国とほぼ同様です。
- 順序立てて考え、相手の立場に立ってわかりやすく説明することが課題です。
- 考えを整理し、適切な表現で書くことが課題です。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する定着度をみる問題で構成されています。各問題は出題の趣旨が学習指導要領の指導事項に対応することが基本とされています。

- ・話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。
- ・出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く。
- ・前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する。
- ・「かすみ」「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す。

設問数は32問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国とほぼ同様です。
- ・「書くこと」の領域は全道よりやや低く、全国より低い結果で課題があります。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国よりやや低く、課題があります。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]のうち、基本的な漢字の「書き」については全道・全国と同様です。「読み」については全道・全国とほぼ同様です。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に関しては、全道・全国とほぼ同様です。日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えます。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 二	司会の役割を果たす	話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する	56.0%	57.5%	54.7%
漢字の 読み 書き	8 一	漢字を書く	2 「キントウ」（均等）	58.0%	55.9%	59.3%
			3 「オビ」（帯）	68.8%	67.4%	66.7%
	8 二	漢字を読む	3 「連なる」（ツラ-なる）	89.6%	89.7%	89.4%
語句と 活用	8 三	理解と活用	エ 二の足を踏む	85.4%	86.0%	84.8%
	8 五	文脈と敬語	2 適切な敬語を選択する	91.6%	91.5%	91.3%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	6 二	論理的構成や展開を考えて話す	使用する言葉の組み合わせの適切なものを選択する	74.1%	79.4%	80.7%
書くこと	7 一	伝えたい事柄を明確にして書く	比較の対象が明確に分かるように書く	67.5%	72.2%	73.6%
読むこと	4 二	必要な情報の読み取り	中学生が参加できる講座の選択	65.9%	69.8%	70.1%
漢字読み	8 二	正しく読む	2 社会を風刺（ふうし）する	64.7%	74.1%	70.6%
語句と 活用	8 六	修飾・被修飾	「すさまじい」と修飾・被修飾	67.9%	70.7%	73.4%
	8 七 2	仮名遣いの変更	（にほふ）を現代仮名遣いに直す	76.3%	82.8%	83.4%

〈指導の改善にあたって〉

- ・学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- ・漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに繰り返し指導に努める必要があります。
- ・目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- ・日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

国語 B （主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。領域が重複し、応用・発展した出題になっています。

- ・分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く。
 - ・文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く。
 - ・間違いやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する。
- 設問数は9問です。

- ・「書くこと」「読むこと」の領域では、全道よりやや低く、全国より低い結果です。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]は全道・全国とほぼ同様です。

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと 読むこと	2 三 根拠を明確にして書く	文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く	58.7%	64.4%	65.7%
書くこと 言語文化	3 三 自分の考えを具体的に書く	漢字学習の注意点やコツを特徴を取り上げ説明する	62.0%	64.4%	64.6%
読むこと	1 一 段落の関係理解と文章展開	段落相互の関係で適切なものを選択	68.3%	70.3%	71.7%
	2 二 表現の仕方とその効果	表現の効果の説明の選択	71.9%	74.4%	75.6%
	3 二 情報の関連の読み取り	参考資料の読み取りと選択	64.2%	68.0%	70.2%

〈指導の改善にあたって〉

- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、継続して指導に努めることが大切です。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。

教科に関する意識 （質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 59.3%、全国の 57.7% に対して石狩市は 61.5% で、全道に比べ 2.2%、全国に比べて3.8%高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 87.4%、全国の 88.4% に対して石狩市は 89.1%で、全道に比べ 1.7%、全国に比べ0.7%高くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 72.0%、全国の 71.9% に対して石狩市は 72.8% と、全道に比べ 0.8%、全国に比べ0.9%高くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 74.5%、全国の 70.1% に対して石狩市は 74.1%で、全道に比べ 0.4% 低く、全国に比べ4.0%高くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的な回答率は、いずれも全道・全国と同様の回答となっています。
- ・無解答率は全道とほぼ同様ですが、全国よりやや高い傾向にあります。

平成25年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

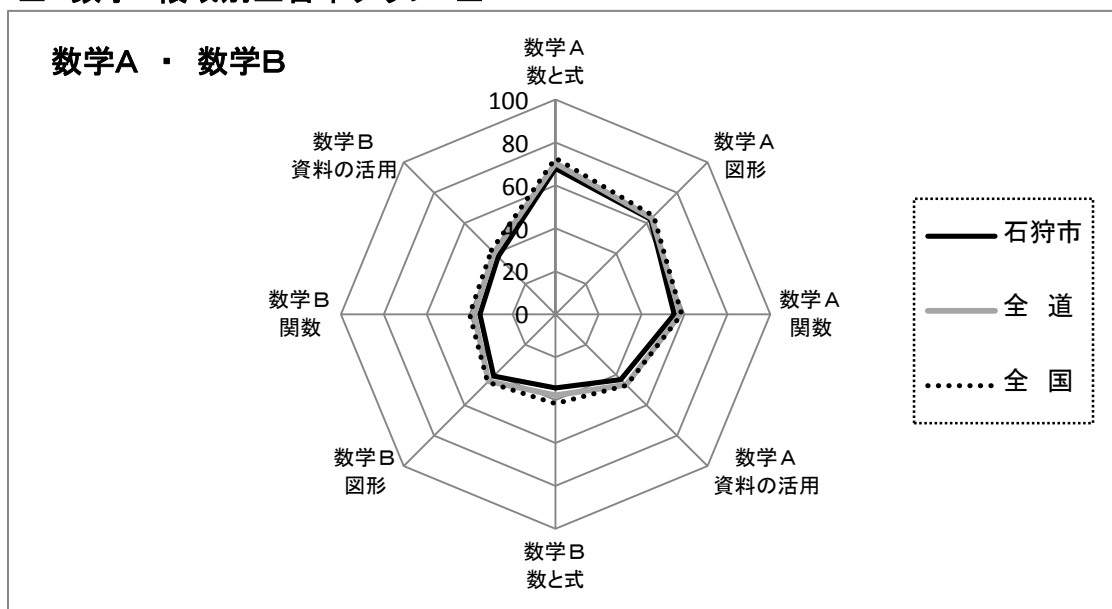
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	22. 9問／36問	62. 1%	6. 6問／16問	41. 5%
全 道(公立)	22. 4問／36問	60. 0%	6. 3問／16問	39. 1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全 国 ; ☆				☆		○							☆		○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 図形など、具体的事象に関する知識理解は全道と同様、全国とほぼ同様です。
- 基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題があります。
- 基礎的知識の連携、資料の読み取り、論理的な思考に課題があります。
- [活用]に関しての無回答率がやや高く、粘り強く取り組むことに課題があります。

数学 A（主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。

- ・正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
- ・用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、適切な記述を選ぶ。
- ・事象から一次関数の式を求める。
- ・平均値に関して、適切な記述を選ぶ。事象の起こる確率を求める。

設問数は36問です。

- ・「数と式」の基本的な文字式や方程式の計算や解き方は全道・全国とほぼ同様です。
- ・「図形」の具体的事象など、基礎的・基本的な知識理解は全道・全国と同様です。
- ・「関数」の領域は、全道・全国とほぼ同様です。文字式、等式の変形、関数の数値の変化、 x と y の関係を式で表すなど、基礎・基本事項は理解されています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道・全国よりやや低い結果です。数学で使われる言葉の意味や、文章・図の読み取りに課題があります。
- ・無解答率が高く課題です。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	2 (1) 整数の加法減法の計算	$2(5x+9y)-5(2x+3y)$ を計算	79.3%	77.8%	81.7%
図形	4 (1) 拡大図をかくことができる	長方形の2倍の拡大図をかく	88.1%	86.5%	88.4%
図形	7 (1) 三角形の合同条件	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	81.2%	78.9%	79.2%
関数	12 $y=ax+b$ の式で表す	一次関数の事象を式で表す	54.3%	53.5%	54.3%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	1 (2) $()$ を含む数の計算ができる	$5 \times (4-7)$ を計算する	78.7%	83.4%	87.5%
数と式	1 (4) 正負の数の意味の理解	東京の時刻を基準に、カイロとの時差を表す	59.3%	62.0%	64.8%
図形	4 (3) 回転移動	三角形を回転移動したときの回転角を求める	53.9%	54.2%	56.0%
関数	10 (1) 点を2つの数の組で表す	座標平面上の点の座標を求める	74.3%	77.2%	78.9%
関数	11 (1) x に対応する y の値を求める	$y=2x-1$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	73.3%	79.1%	81.9%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
資料の活用	14 (2) 相対度数を求める	最高気温を表したヒストグラムから相対度数を求める	17.0%	36.2%	24.5%	27.5%	22.8%	25.1%
資料の活用	15 (2) 確率を求める	2つのさいころの目が両方とも1になる確率を求める	52.1%	21.5%	52.7%	15.5%	53.8%	12.9%

〈指導の改善にあたって〉

・基礎的・基本的事項の習熟には日常的に繰り返すことが必須です。意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努めることが大切です。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを活用する能力をみる問題です。

- ・ 安静時心拍数が一定であるときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する。
 - ・ 表やグラフを用いて、水温が 80°C になるまでかかる時間を求める方法を説明する。
 - ・ ヒストグラムの特徴を基に、生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する。
 - ・ 基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する。
- 設問数は 16 問です。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることに課題があります。
- ・ 無解答率が高くなっていることに課題があります。

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	6 (1)	考察の対象を捉える	44.3%	48.6%	52.5%
資料の活用	5 (1)	情報を適切に読み取る	61.3%	65.2%	69.0%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
関数	3 (2)	数量（関数）	27.3%	38.7%	29.4%	37.3%	31.7%	34.1%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し繰り返し指導・確認する必要があります。
- ・ 資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。
- ・ 最後まで粘り強く取り組む姿勢の大切さを指導する必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 55.3%、全国の 55.5% に対して石狩市は 53.8% で全道より 1.5%、全国より 1.7% 低くなっています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 79.0%、全国の 80.5% に対して石狩市は 79.0% で、全道と同様、全国より 1.5% 低くなっています。
- ・ 「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 69.3%、全国の 70.5% に対して石狩市は 69.8% と、全道より 0.5% 高く、全国より 0.7% 低くなっています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 90.4%、全国の 90.8% に対して石狩市は 90.0% で、全道・全国と同様です。多くの生徒は「数学ができるようになりたい」との願望をもっていることがわかります。
- ・ 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は全道・全国とほぼ同様の結果です。
- ・ 数学に関する質問では、全般的に全道・全国と同様の傾向が多くみられ、低い場合でも差はわずかです。

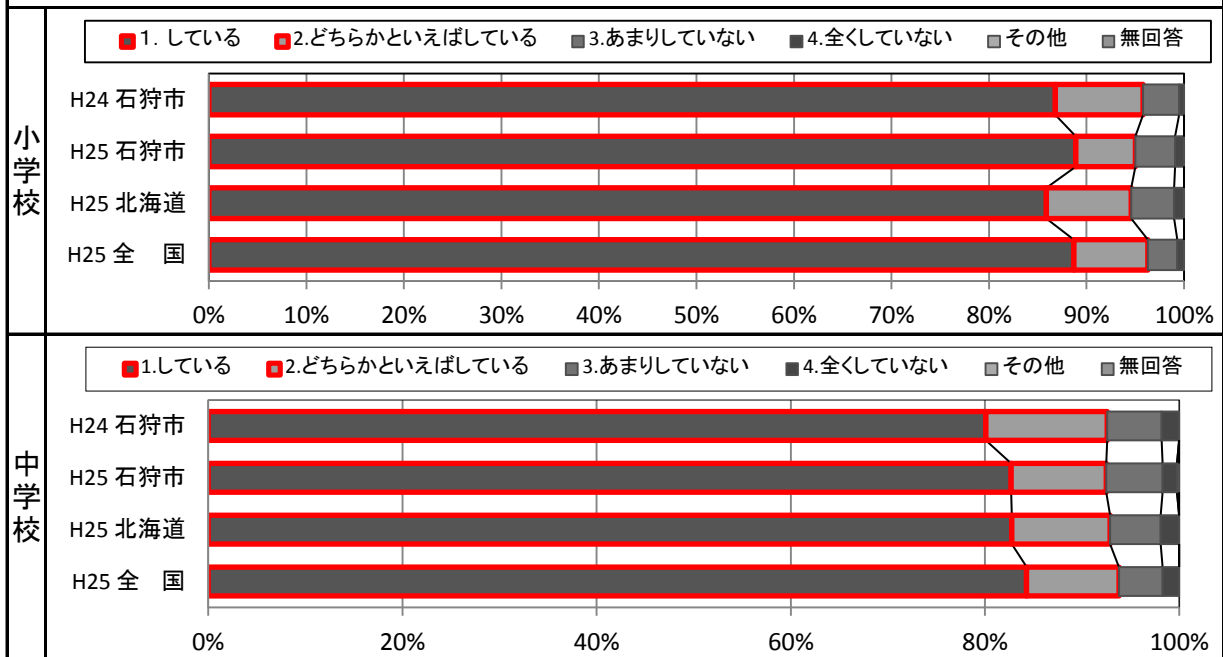
平成25年度 学習状況調査 [児童・生徒質問紙] 結果

I 生活習慣

朝食を食べる習慣は、「毎日食べる」がやや改善

「朝食を毎日食べる」割合は、小学生では95.0%(全道比+0.4p、全国比-1.5p)、中学生では92.5%(全道比-0.3p、全国比-1.5p)です。全体的な傾向としては、前年度同様と言えます。

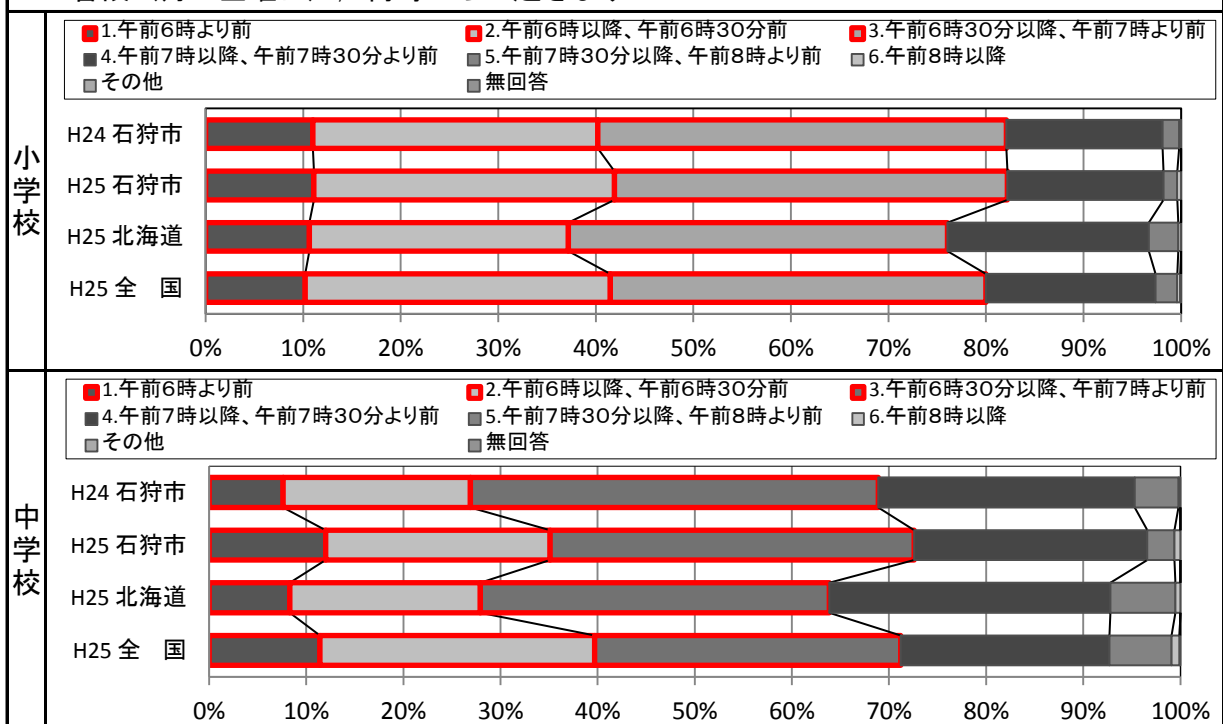
1. 朝食を毎日食べていますか



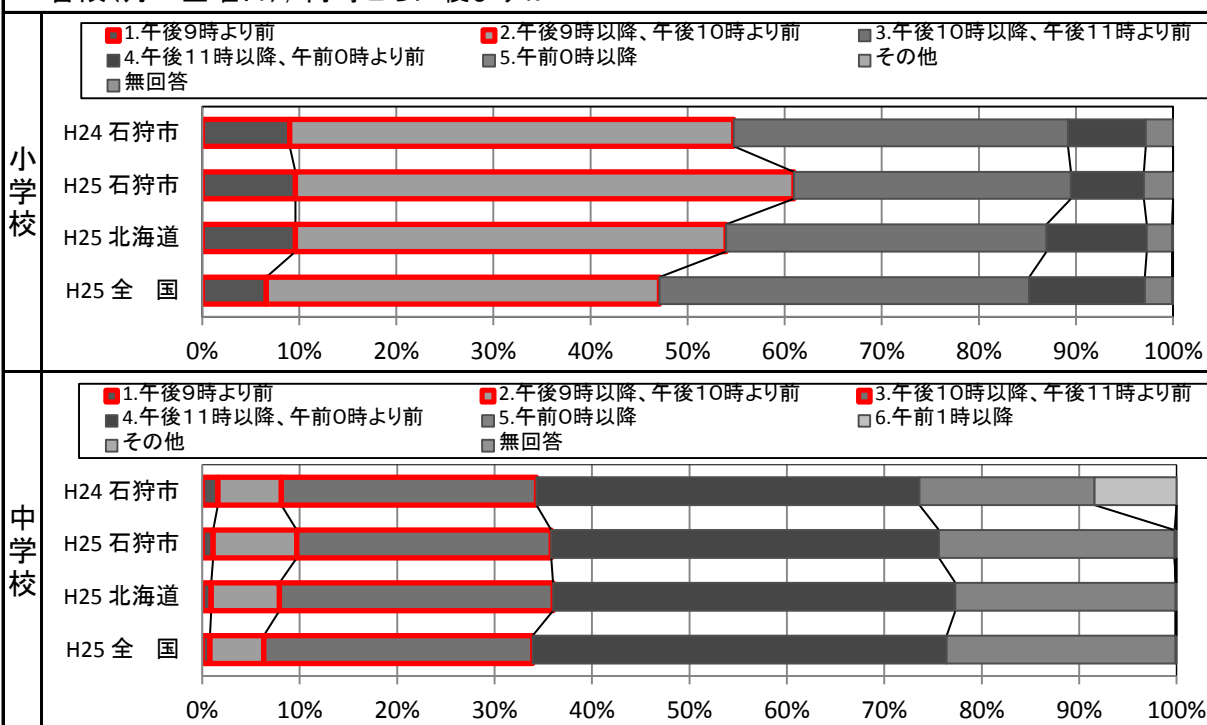
起床・就寝は、「早寝・早起き」の傾向

起床時刻は、午前7時前に起床する児童・生徒の割合が増えています。小学生は82.2%(全道比+6.3p、全国比+2.2p)、中学生は72.6%(全道比+8.8p、全国比+0.6p)です。就寝時刻については、午後10時前に就寝する小学生は60.9%(全道比+7p、全国比+13.8p)、午後11時前に就寝する中学生は35.8%(全道比-0.2p、全国比+1.9p)です。

2. 普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか



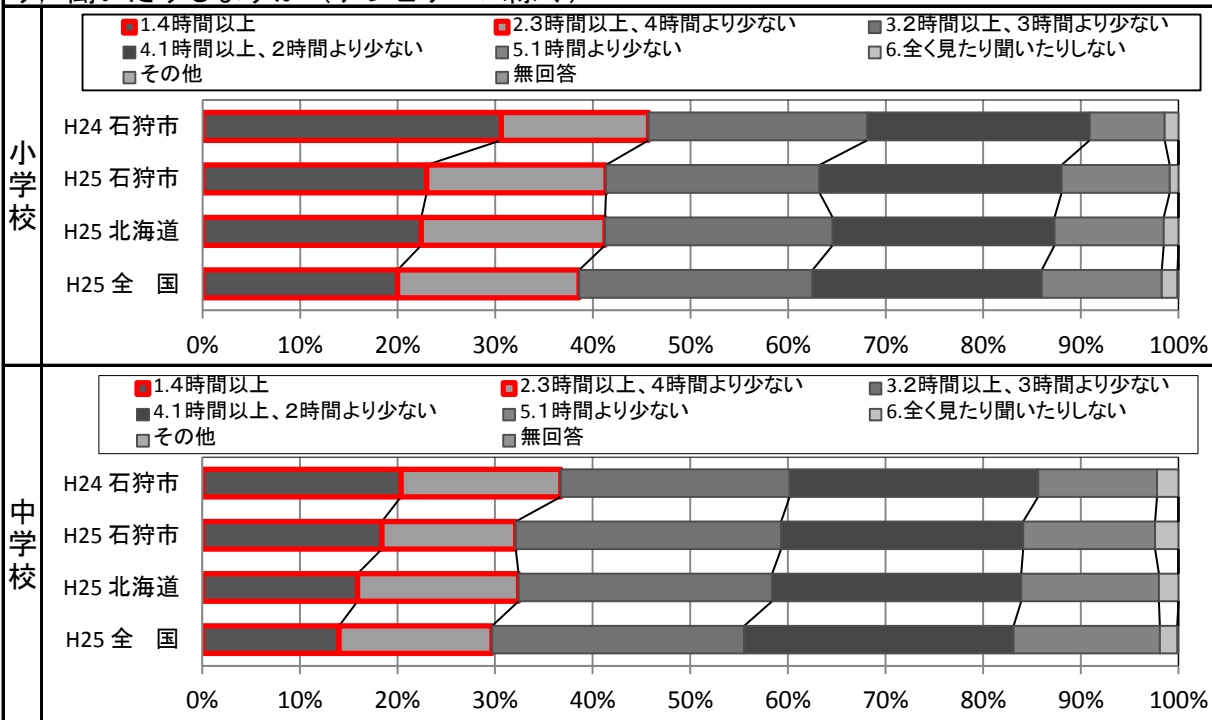
3. 普段(月～金曜日), 何時ごろに寝ますか



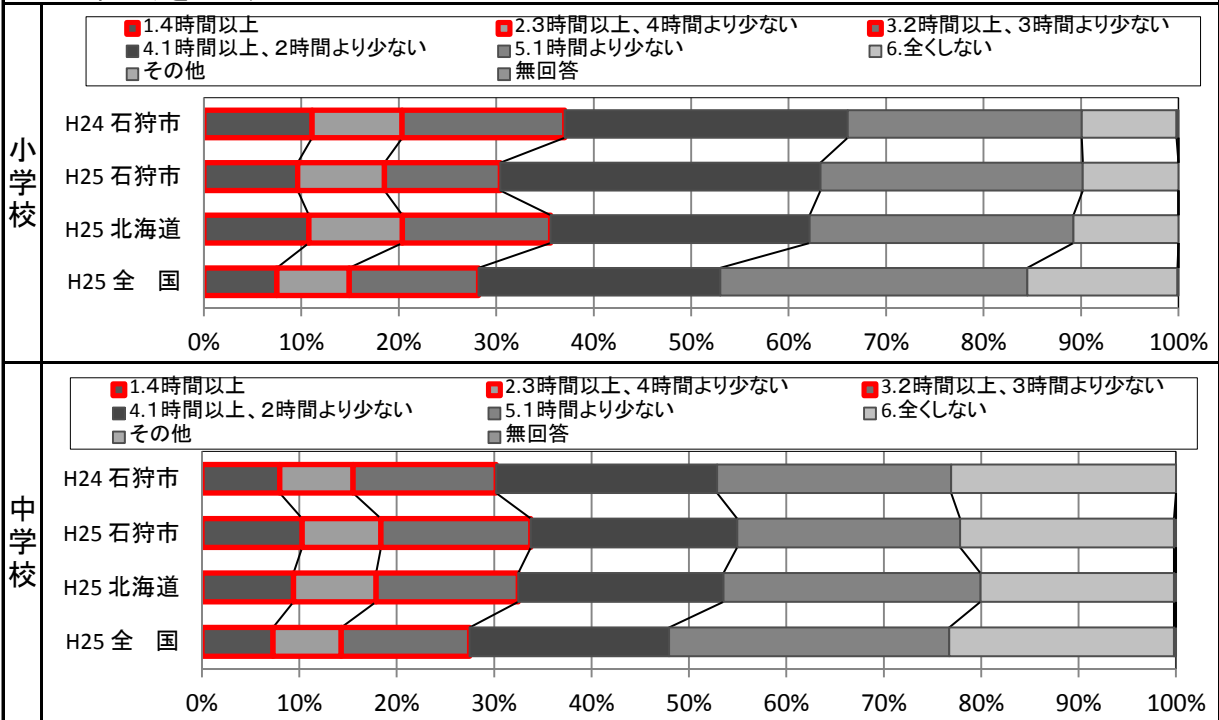
TV・ビデオ等の視聴やゲームの時間…依然多い状態

平日にテレビ、ビデオ、DVDを見ている時間については、3時間以上見ている割合が、小学生で41.4%(全道比+0.2p、全国比+2.8p)、中学生で32.1%(全道比-0.3p、全国比+2.4)と昨年度に比べ、改善が見られます。テレビゲームをする時間については、2時間以上している割合が、小学生で30.4%(全道比-5.2p、全国比-2.2p)、中学生で33.8%(全道比+1.3p、全国比+6.3p)と、小学生において改善の傾向が見られました。

4. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



5. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム含む)をしますか

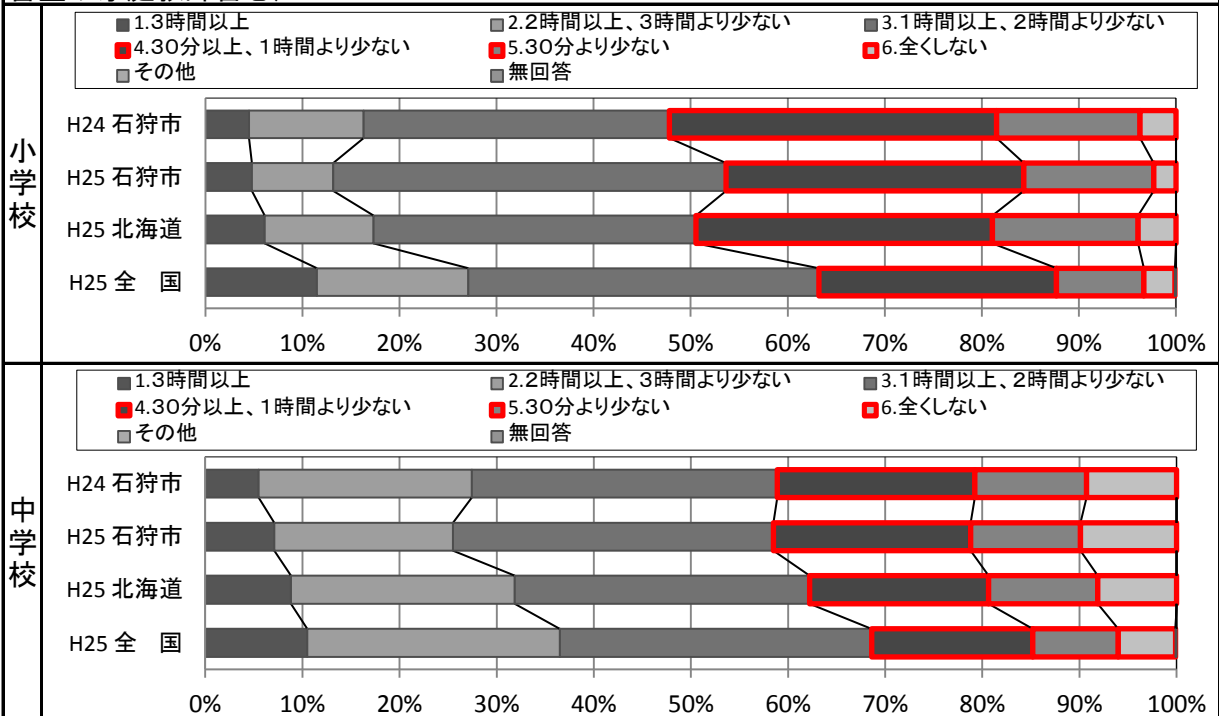


II 家庭学習・読書

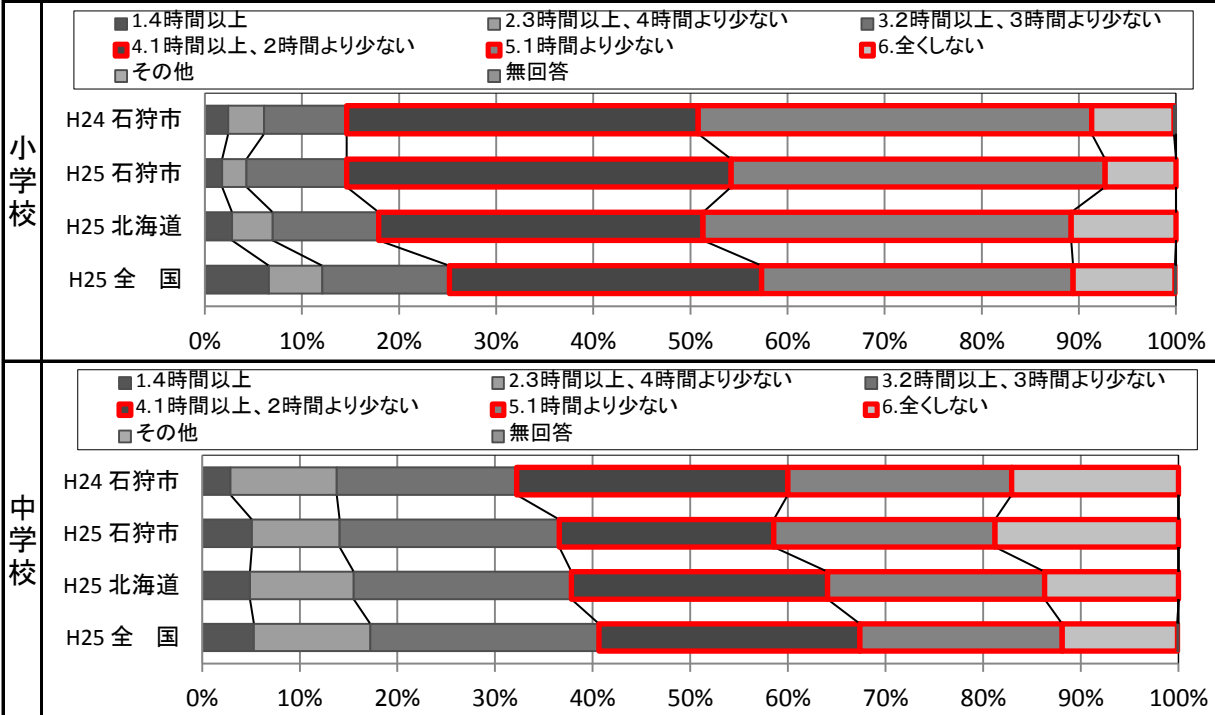
平日は1～2時間、土・日は2～3時間の学習が増加

家庭学習の時間は全国に比べ少ない傾向が続いています。平日(月～金曜日)における家庭での学習時間は、「1時間未満(全くないも含む)」と回答した割合は、小学生で46.4%(全道比-3.0p、全国比+9.7p)、中学生で41.5%(全道比+3.8p、全国比+10.2p)でした。土・日曜日についてもほぼ同様の傾向を示し、小・中共に、平日は1～2時間、土・日には2～3時間の家庭での学習が増えています。

6. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



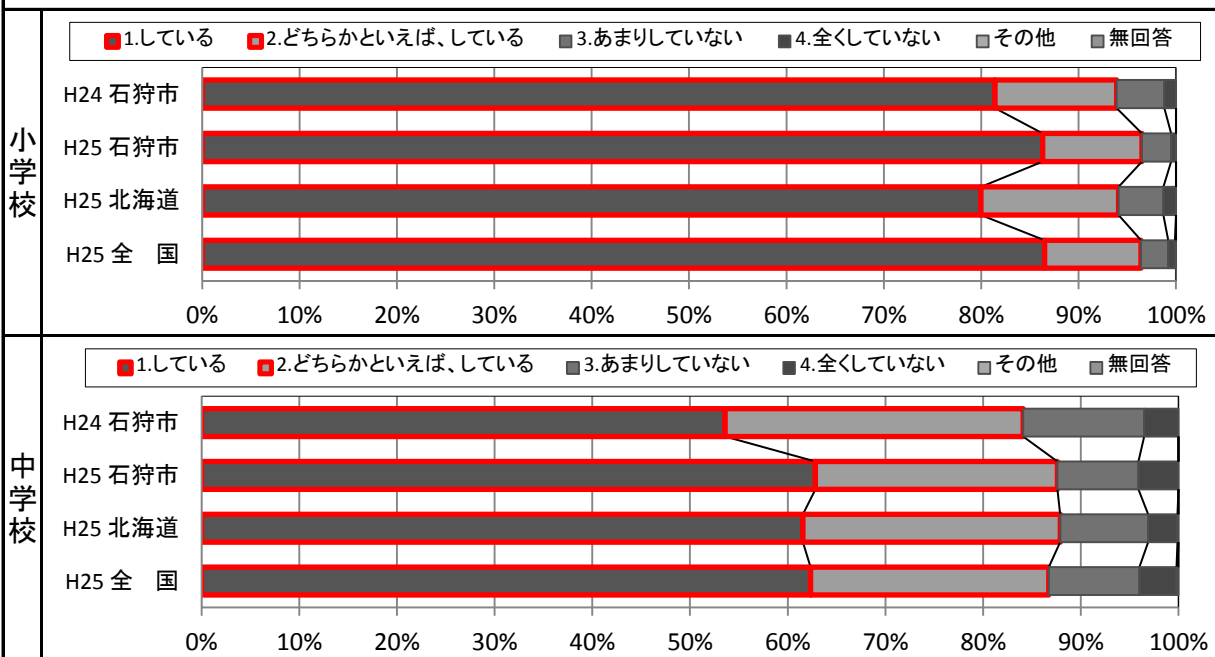
7. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



家庭で宿題をする割合は年々増加 家庭学習習慣の定着に向け前進

「家で宿題をしている・どちらかといえば、している」と回答した割合は、小学生で96.5%(全道比+2.5p、全国比+0.1p)、中学生で87.7%(全道比-0.1p、全国比+0.9)という結果でした。小学生・中学生とも、昨年度と比べ、宿題を家でする割合(前年比、小学生+2.6p、中学生+3.6p)が、増えています。

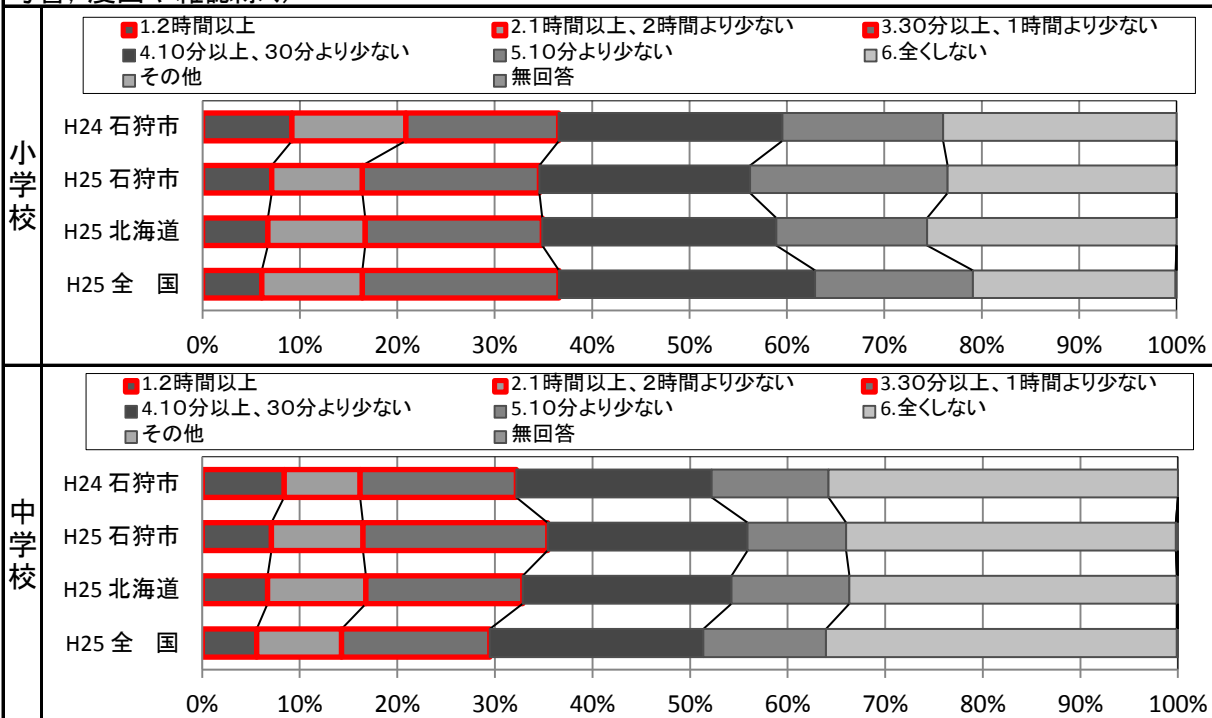
8. 家で、学校の宿題をしていますか



家庭での読書量は、小学生はやや減少し中学生はやや増加

1日に30分以上読書する小学生は、小学生で34.6%(全道比-0.3p、全国比-2.0p)、中学生で35.4%(全道比+2.5p、全国比+5.9)という結果でした。一方、全く読まないと回答した小学生は23.5%(全道比-2.1p、全国比+2.7p)、中学生は33.8%(全道比+0.2p、全国比-2.2p)でした。

9. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

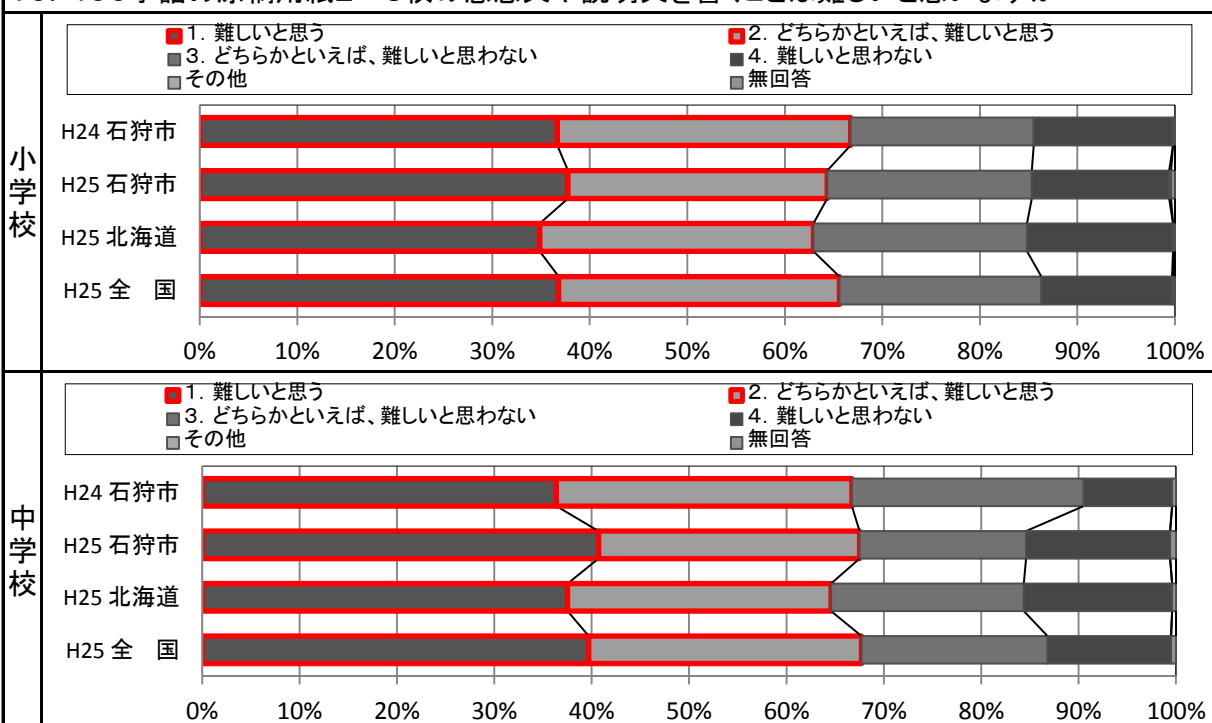


Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文苦手とする小・中学生は、全国とほぼ同じ傾向

決められた字数に合わせて作文を書くことについて、「難しい・どちらかといえば、難しい」と回答した小学生は64.4%(全道比+1.4p、全国比-1.2p)、中学生は67.5%(全道比+3.0p、全国比-0.2p)でした。指定された字数で作文を書くことが苦手な小中学生は全道よりやや多く、全国とはほぼ同様の傾向です。

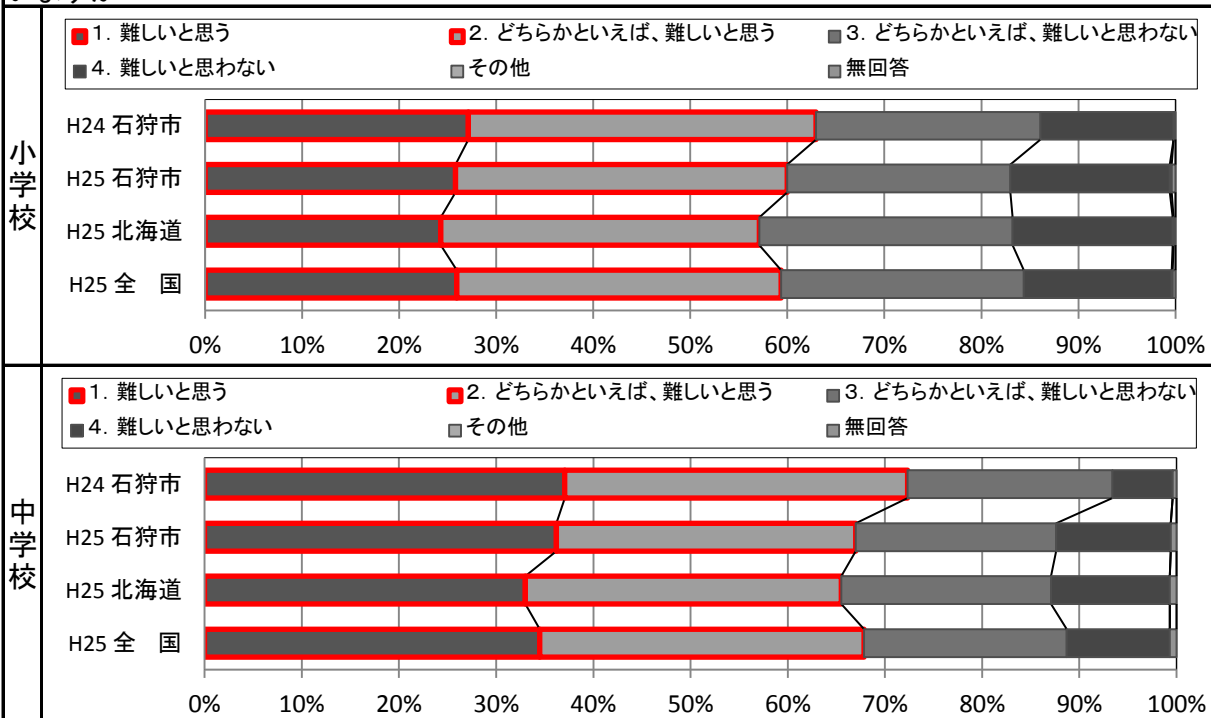
10. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



自分の考えを表現すること…依然苦手の傾向

自分の考えを言葉や文章で表現することが難しいと思っている割合は、小学生で60.0%(全道比+2.9p、全国比+0.7)、中学生で67.0%(全道比+1.5p、全国比-0.9p)という結果でした。

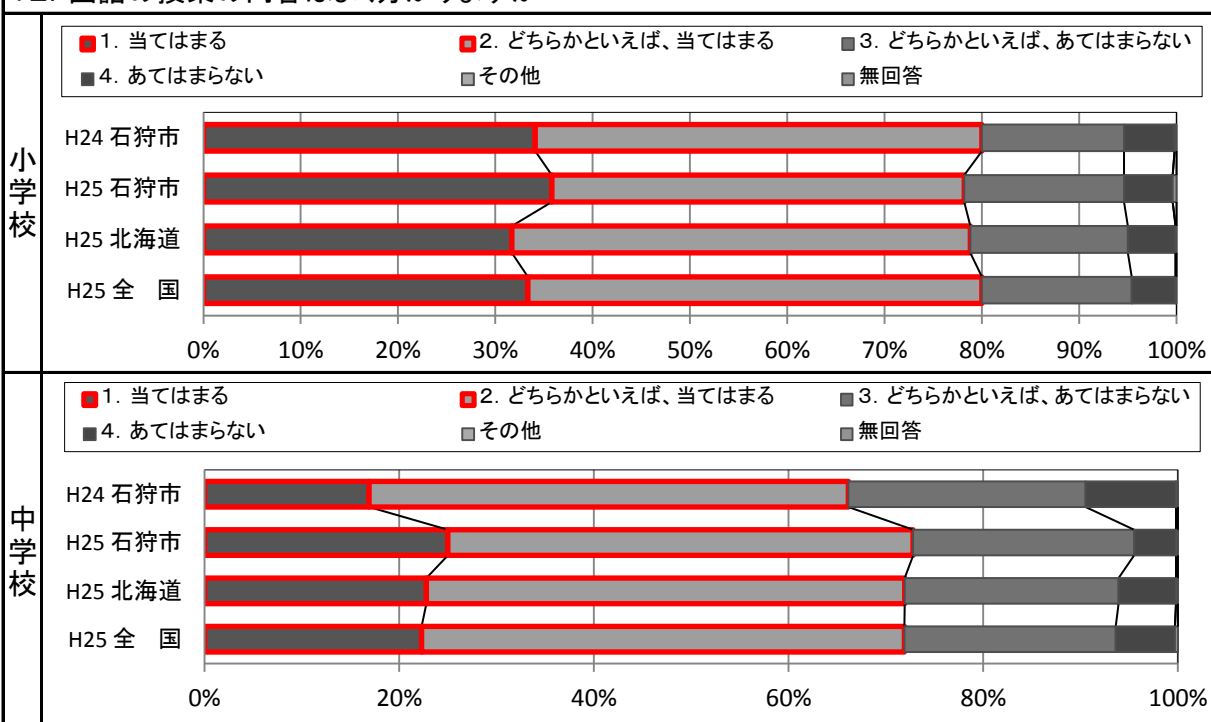
11. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



「国語の授業が分かる」…中学生に改善

国語の授業の内容が分かったと解答したのは、小学生で78.2%(全道比-0.6p、全国比-1.7p)、中学生で72.8%(全道比+0.8p、全国比+0.9)という結果でした。中学生にやや改善の傾向が伺えます。

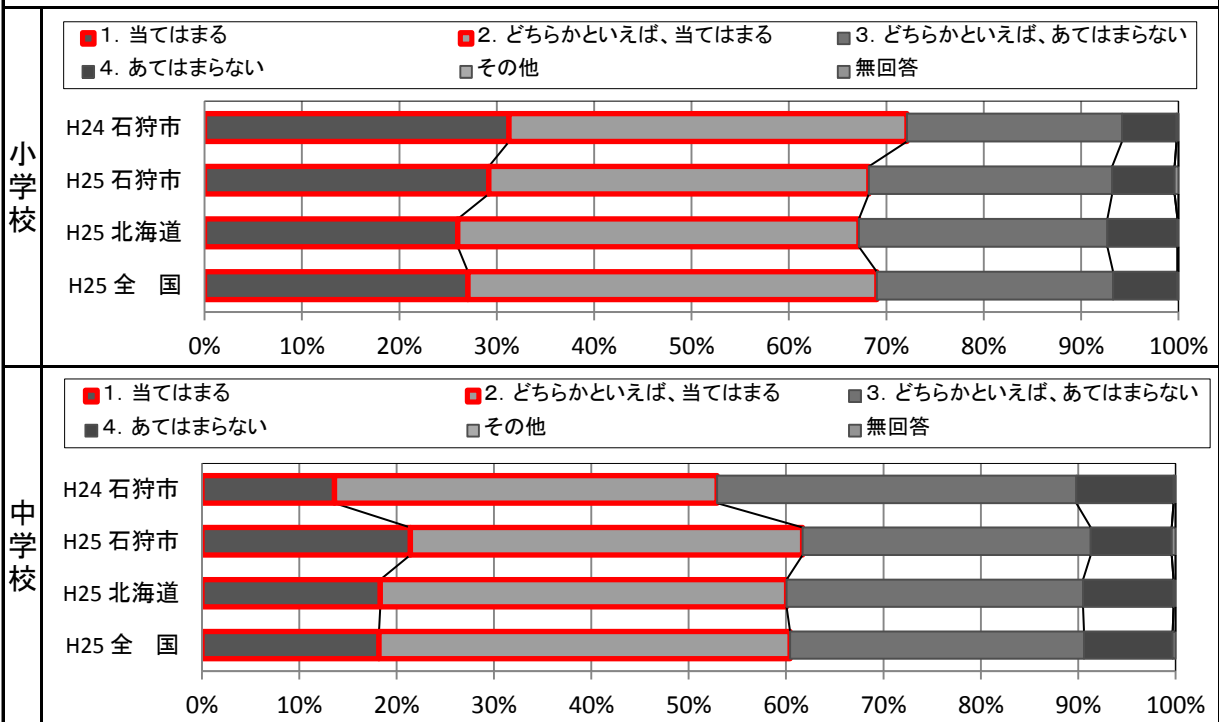
12. 国語の授業の内容はよく分かりますか



自分の考えの根拠を明らかに書くこと…小・中共に全道・全国とほぼ同様

自分の考えを根拠を明らかにして書こうとする姿勢については、小学生で68.2%(全道比+1.0p、全国比-0.7p)、中学生で61.7%(全道比+1.7p、全国比+1.3p)という結果でした。小学生・中学生ともに、全道・全国とほぼ同様の結果となりました。

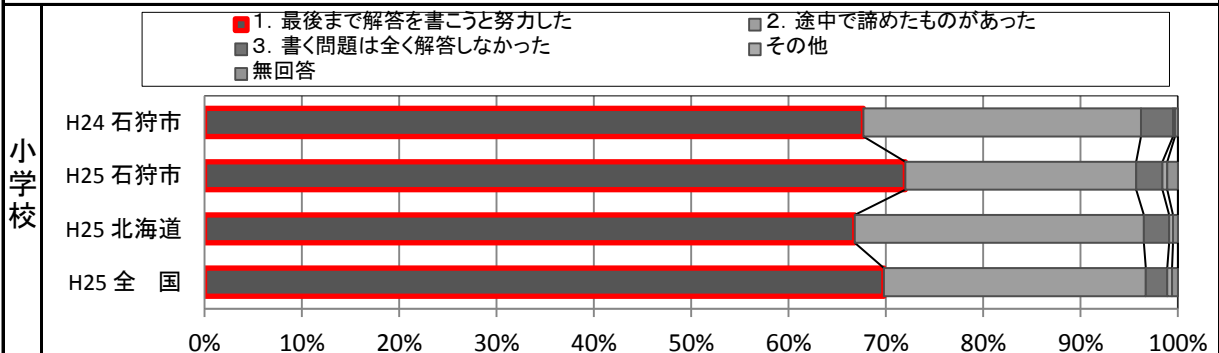
13. 国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



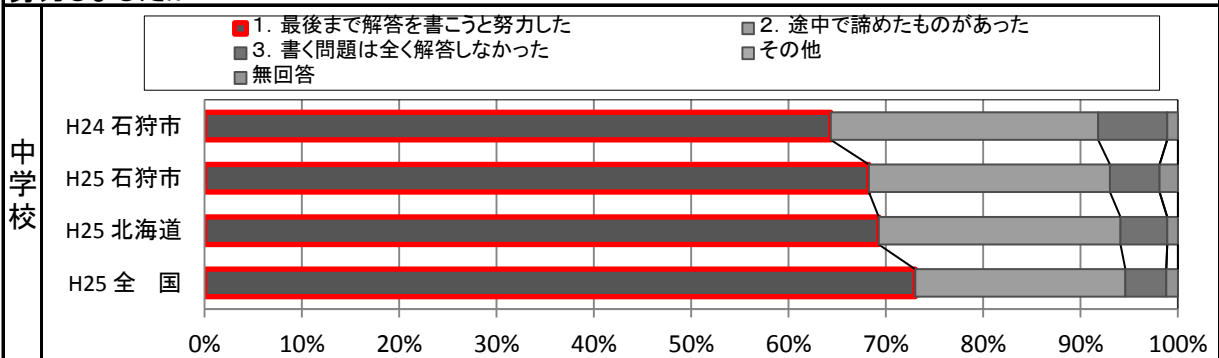
文章に書いて答える問題…向上の傾向

文章で答える問題については、「最後まで努力した」と回答した小学生は72.0%(全道比+5.2p、全国比+2.2p)、中学生は68.3%(全道比-0.9p、全国比-4.7p)でした。小学生・中学生ともに昨年度に比べ向上が見られます。

14. 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか



14. 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか



Ⅳ 算数・数学の学習について

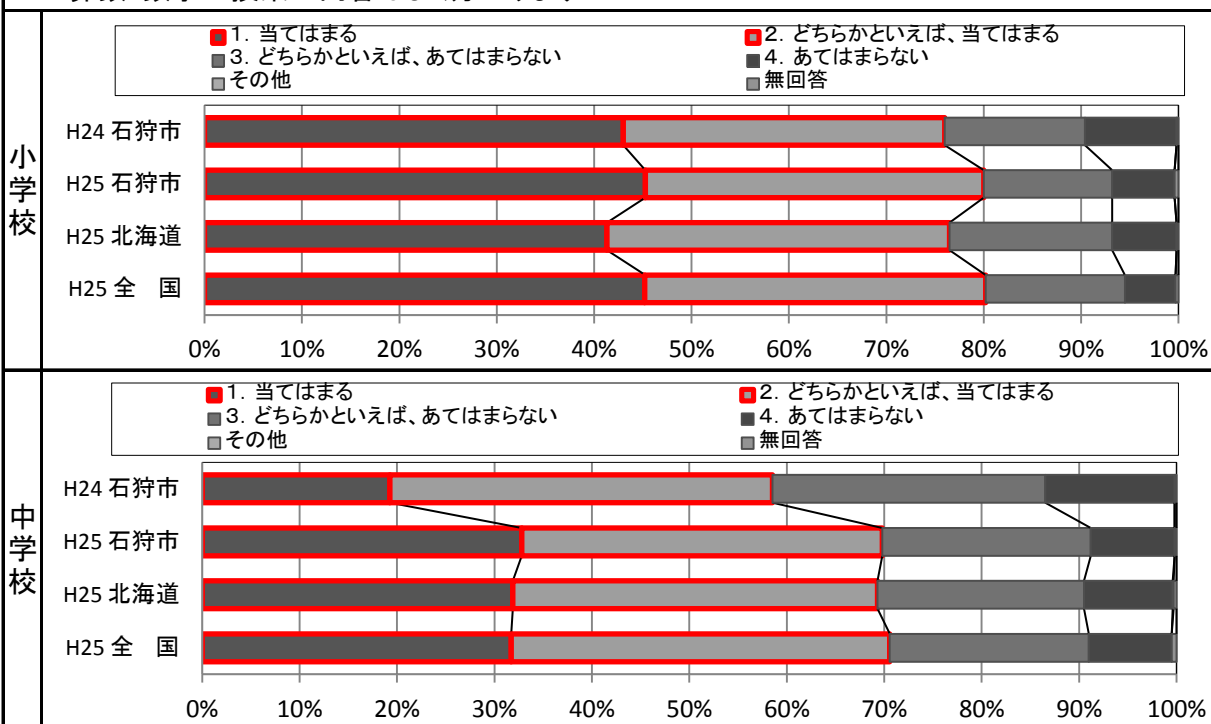
「算数・数学の授業」…授業改善の成果が伺える

算数の授業の内容が分かると解答したのは、小学生で80.1%(全道比+3.6p、全国比-0.1p)、中学生で69.8%(全道比+0.5p、全国比-0.7p)という結果でした。

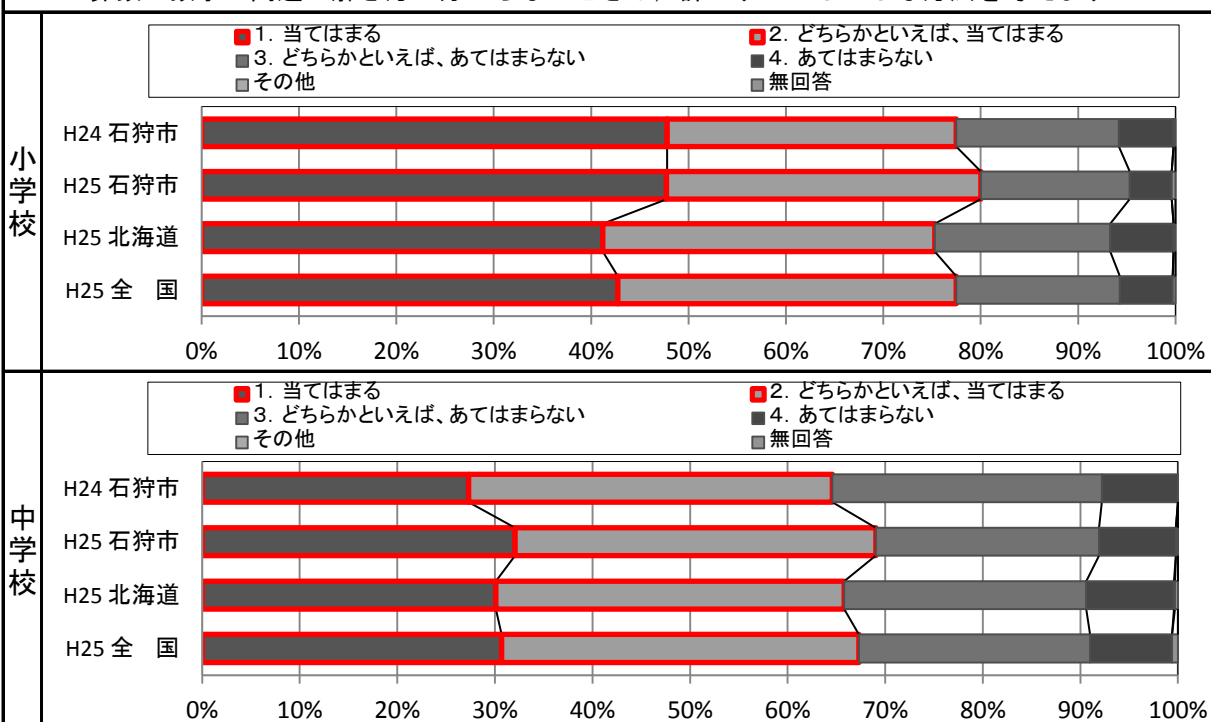
分からない問題への対処の仕方についても、改善が見られます。諦めずに問題の解き方を工夫すると回答した小学生は80.1%(全道比+4.8p、全国比+2.7p)、中学生では69.1%(全道比+3.3p、全国比+1.8p)という結果でした。

いずれも昨年度より向上し、これまでの授業改善の成果と考えます。

15. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



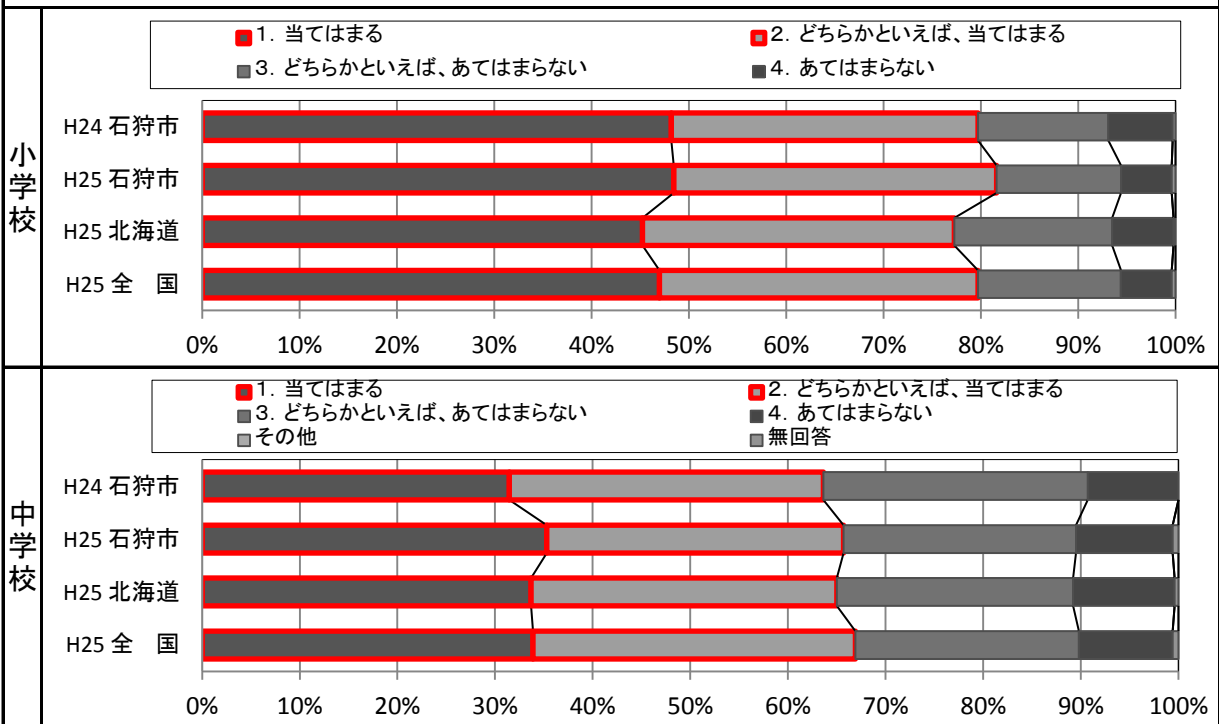
16. 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



問題解決の工夫…成果が伺える

もっと簡単に解く方法を考えると解答したのは、小学生で81.7%(全道比+4.5p、全国比+2.0p)、中学生で65.7%(全道比+0.7p、全国比-1.2p)という結果でした。小学生・中学生ともに昨年度より向上しています。

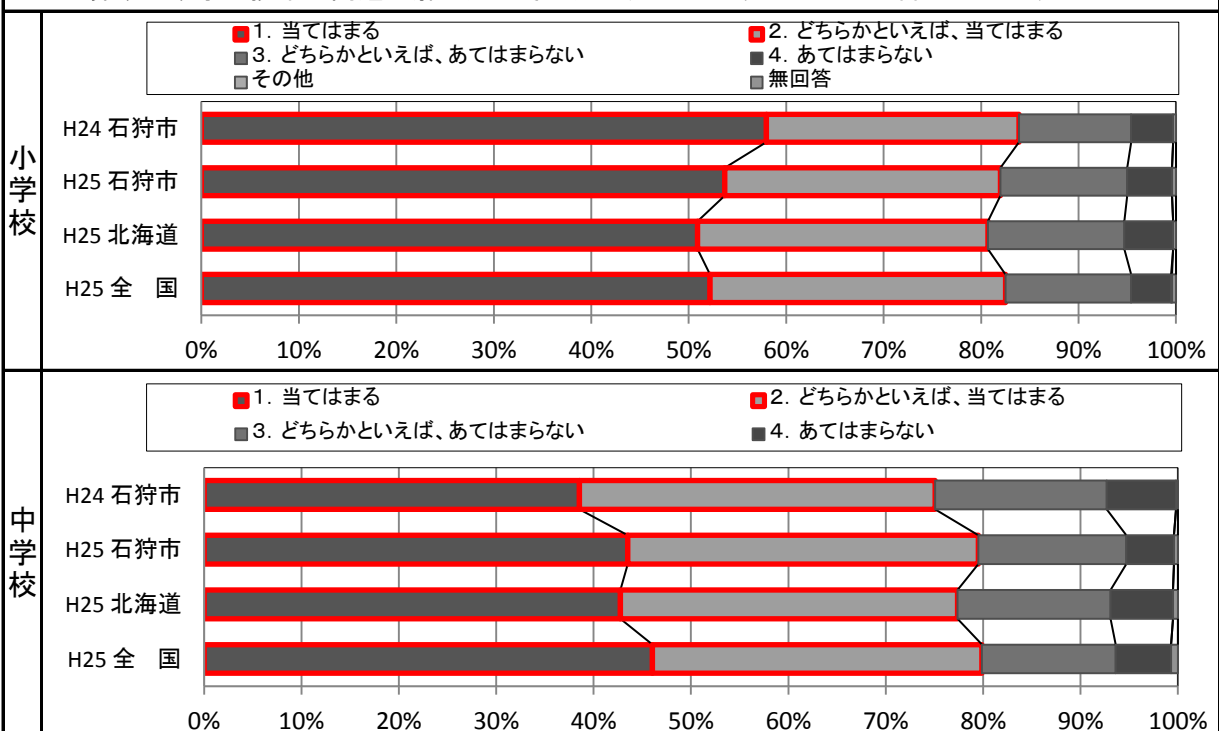
17. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



ノートの工夫…昨年に引き続き成果

問題の解き方や考えをノートに書いていると回答した小学生は82.0%(全道比+1.3p、全国比-0.5p)、中学生は79.5%(全道比+2.2p、全国比-0.3p)と、昨年に引き続き全道を上回り、全国同様になっています。

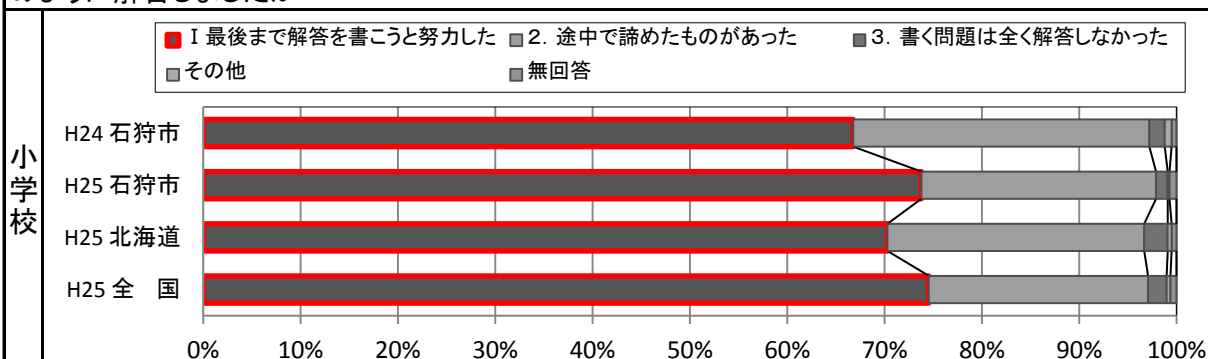
18. 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



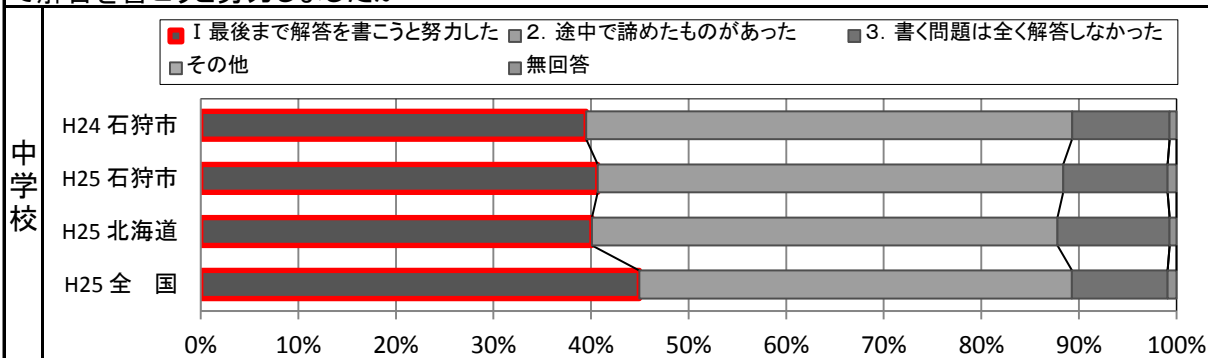
言葉や式を使って、わけや求め方を書く(説明する)問題は改善傾向に

言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答したのは、小学生で73.8%(全道比+3.5p、全国比-0.6p)、中学生で40.7%(全道比+0.6p、全国比-4.2)という結果でした。小学生・中学生の何れも昨年度より向上し全道をやや上回っています。全国よりはやや低く、粘り強く取り組む指導が大切です。

19. 今回の算数の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか



19. 今回の数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか



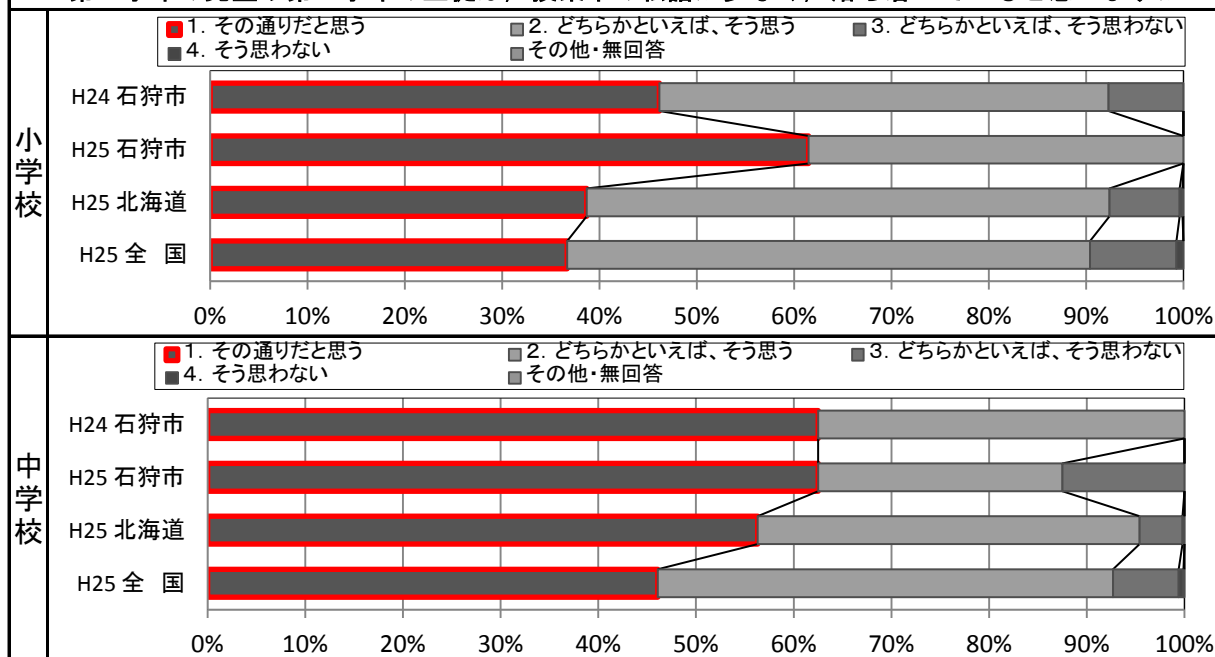
平成25年度 学習状況調査 「学校質問紙」 結果

I 学習態度

落ち着いた態度で授業に取り組む

授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答した学校の割合は、小学校で61.5%(全道比+22.8p、全国比+24.8p)、中学校で62.5%(全道比+6.2p、全国比+16.4p)で、全道・全国より上回っています。

1. 第6学年の児童や第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

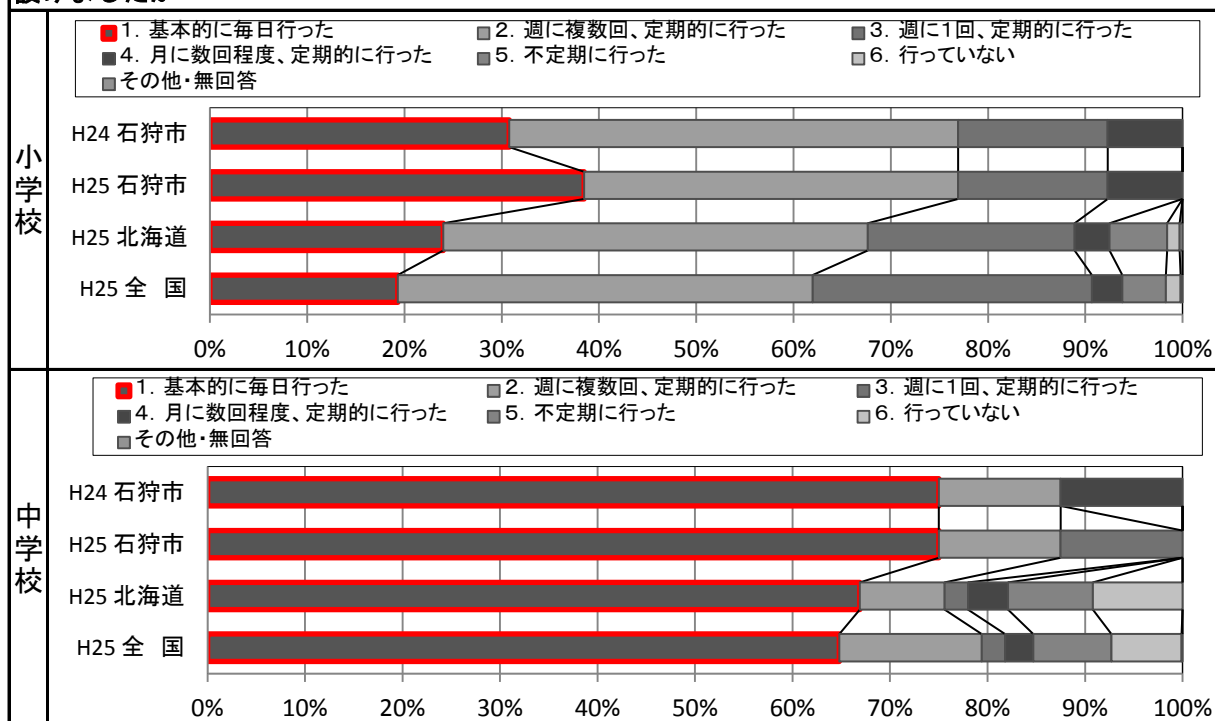


II 学力向上に向けた取組 等

読書活動への取組が定着

「朝読書」を「基本的に毎日行った」のは、小学校で38.5%(全道比+14.5p、全国比+19.2)、中学校は75.0%(全道比 +8.1p、全国比+10.2p)です。「週に複数回、定期的に」「週に1回、定期的に」を含めると100%で、全体的には読書活動は定着しています。

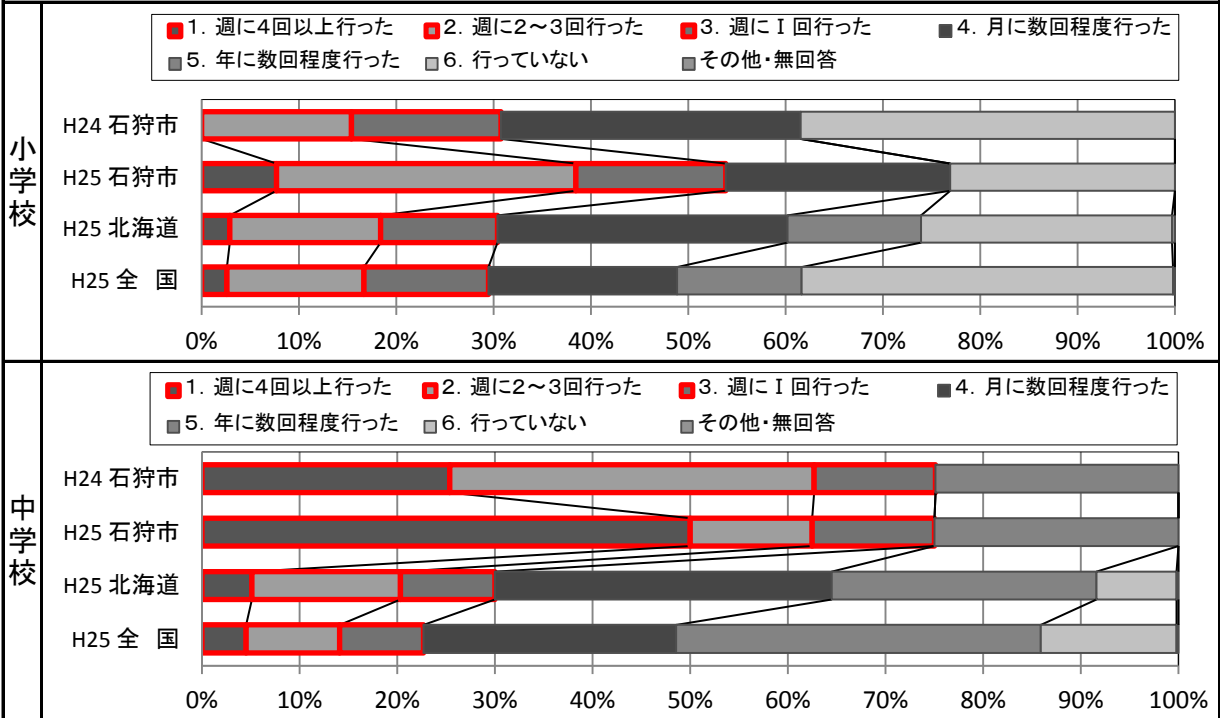
2. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



放課後や長期休業中を利用した補充的学習サポートが増加

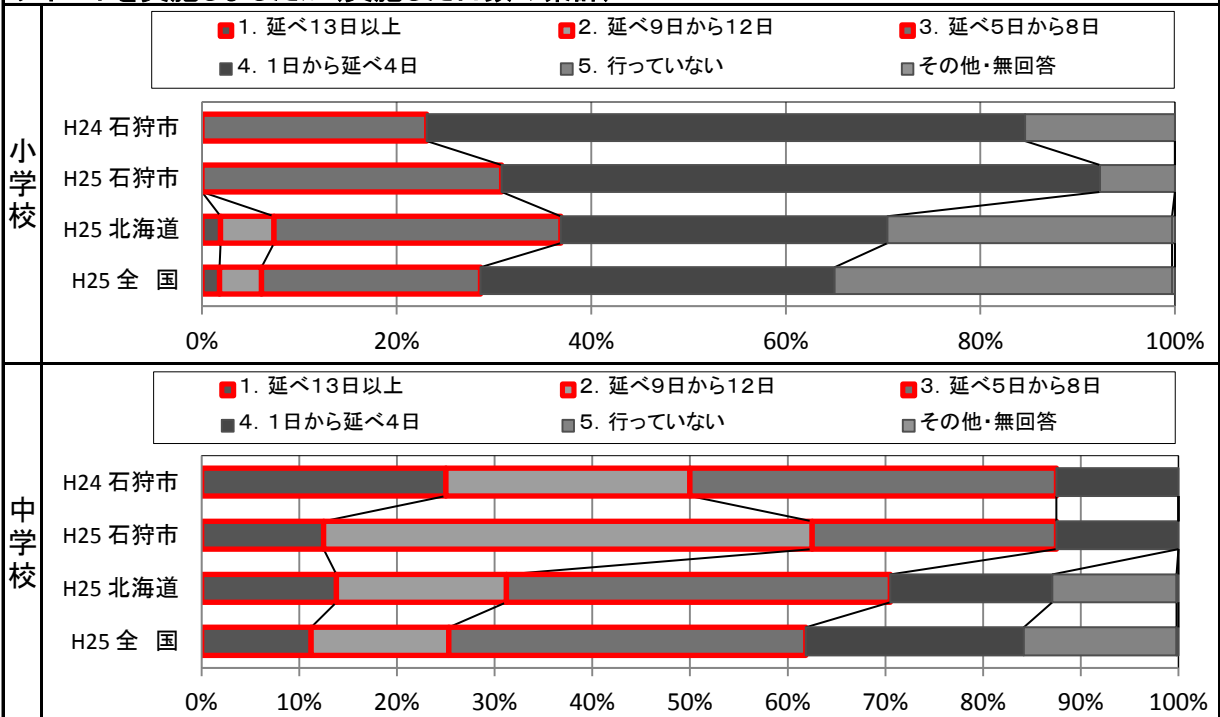
① 放課後を利用した補充的学習サポートを「週に1回以上」行ったのは、小学校で53.9%(全道比+23.5p、全国比+24.4p)、中学校は75.0%(全道比+45.0p、全国比+52.3p)です。小学校、中学校ともに全道・全国より積極的な取組を推進しています。

3. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



② 長期休業中を利用した補充学習サポートは全ての小学校、中学校で実施しています。「延べ5日～8日」以上実施したのは、小学校で30.8%(全道比+6.1p、全国比+2.2p)、中学校は87.5%(全道比+17.0p、全国比+25.7)です。全道と比べると小学校はやや低く、中学校は相当高い結果となっています。

4. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)

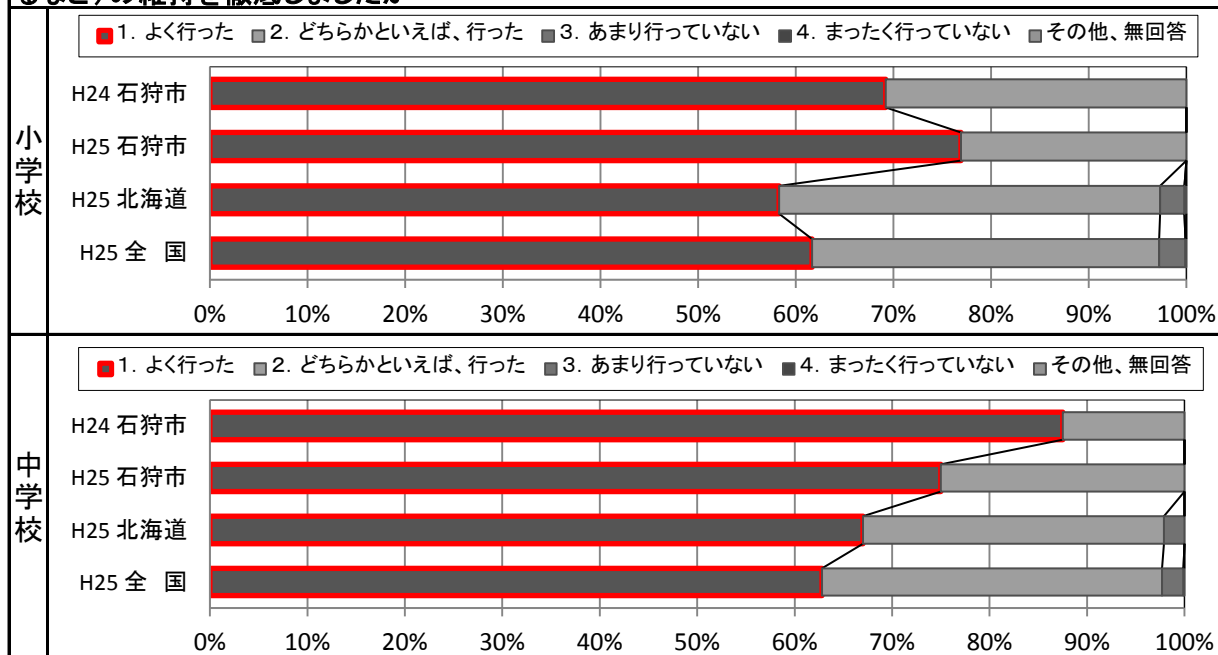


Ⅲ 指導方法・学習規律

授業を充実させるための工夫・改善

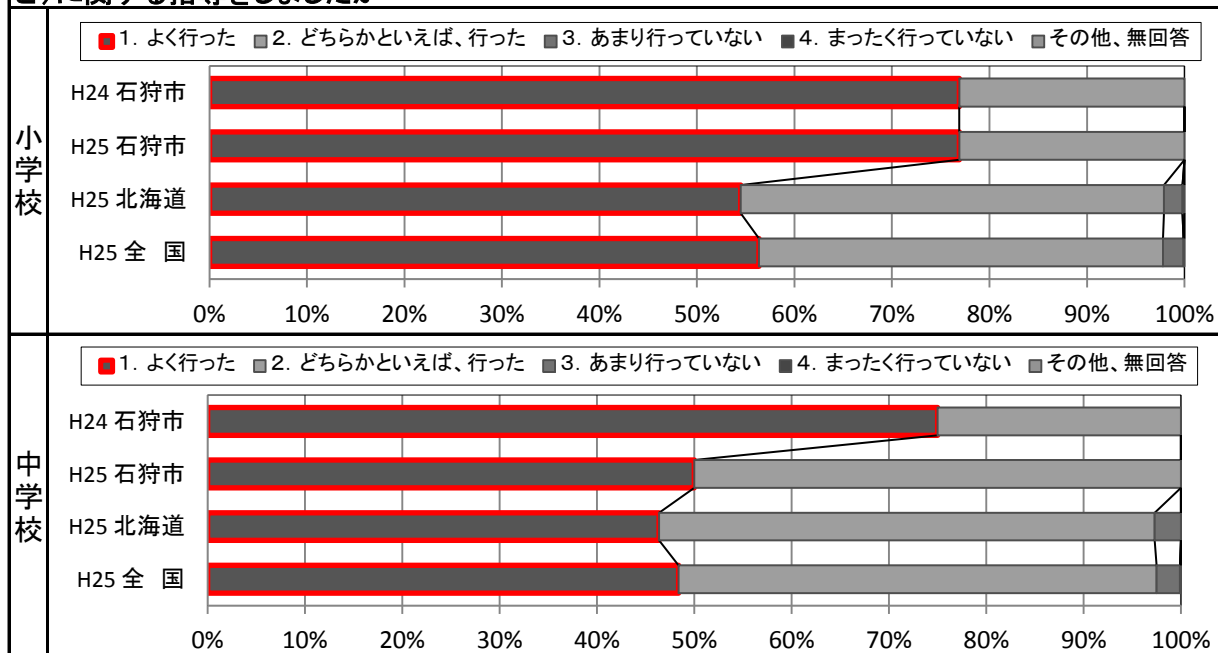
① 学習規律の維持・改善については、「よく行った」のは小学校で76.9%(全道比+18.6p、全国比+15.3p)、中学校は75.0%(全道比+8.0p、全国比+12.2p)です。全道・全国平均より高い結果となっています。

5. 第6学年の児童に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底しましたか



② 学習方法(適切にノートを取るなど)に関する指導を「よく行った」のは、小学校で76.9%(全道比+22.4p、全国比+20.6p)、中学校は50.0%(全道比+3.6p、全国比+1.6p)です。全道平均と比べると小学校は相当高く、中学校はほぼ同様です。

6. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、学習方法(適切にノートをとるなど)に関する指導をしましたか

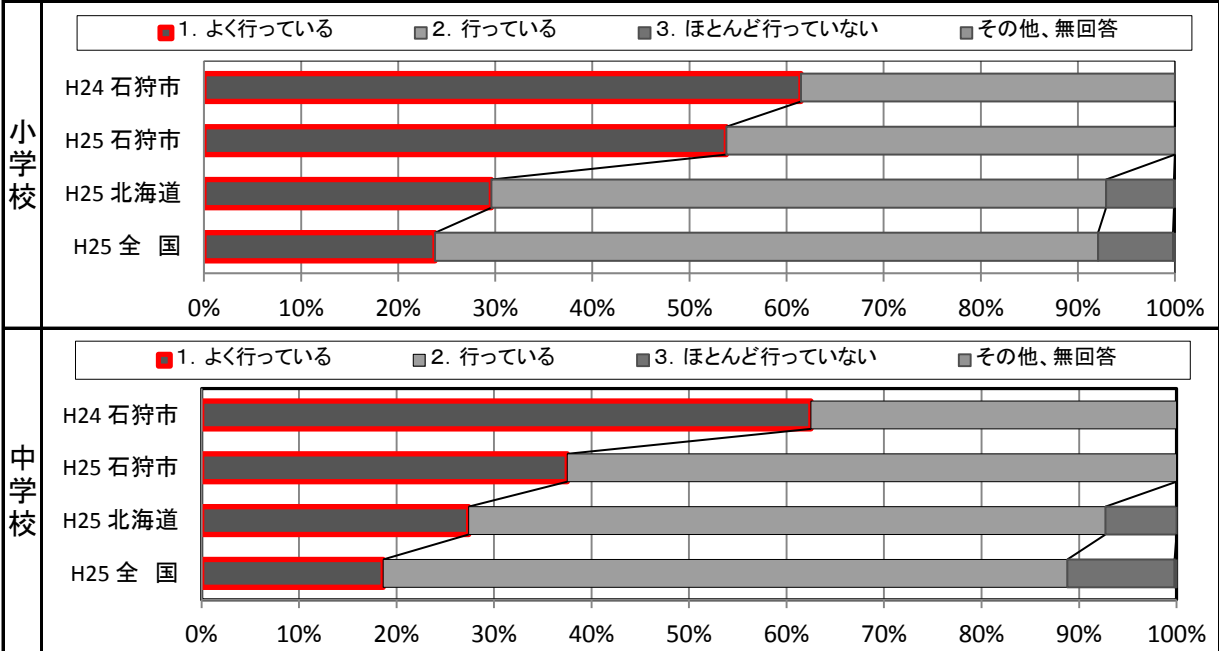


Ⅳ 全国学力・学習状況調査等の活用

全国学力・学習状況調査の結果を活用して改善

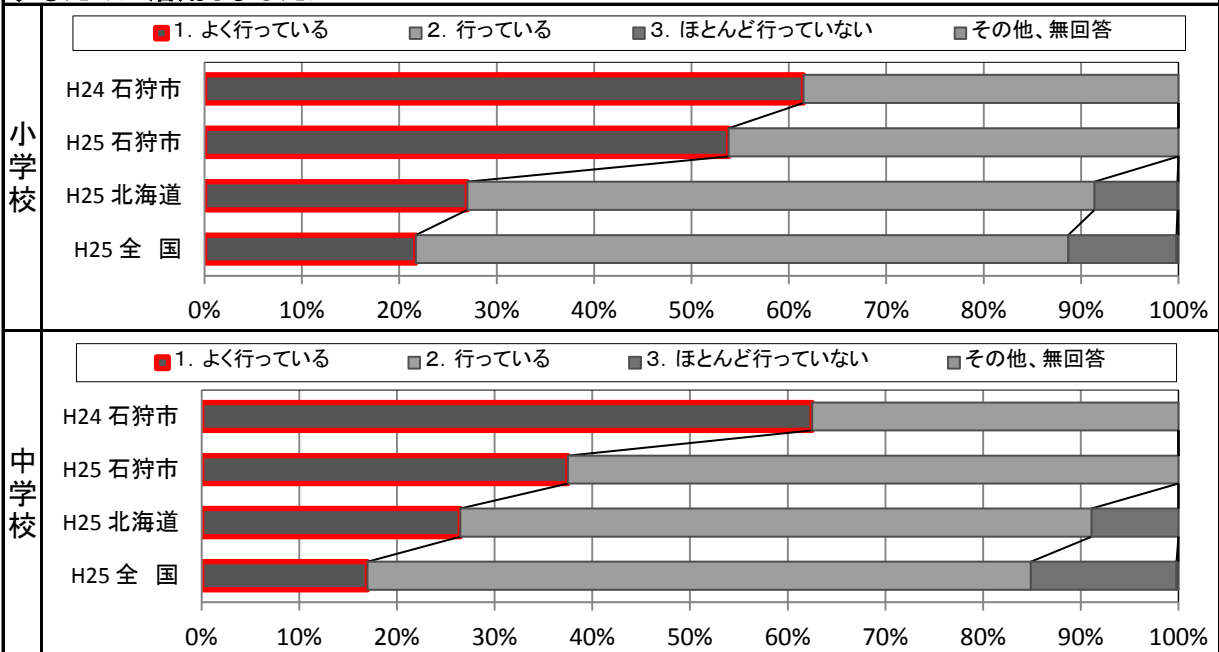
① 具体的な教育指導の改善への利用を「よく行っている」のは、小学校で53.8%(全道比+24.2p、全国比+30p)、中学校は37.5%(全道比+10.1p、全国比+18.9p)です。小学校、中学校ともに教育指導の改善への意欲がうかがわれます。

7. 平成24年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行いましたか



② 各種調査の結果について、教育活動改善への活用を「よく行っている」のは、小学校で53.8%(全道比+26.8p、全国比+32.1p)、中学校は37.5%(全道比+11.0p、全国比+20.5p)です。これまでの改善への取り組みが継続されているものと考えられます。

8. 平成24年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

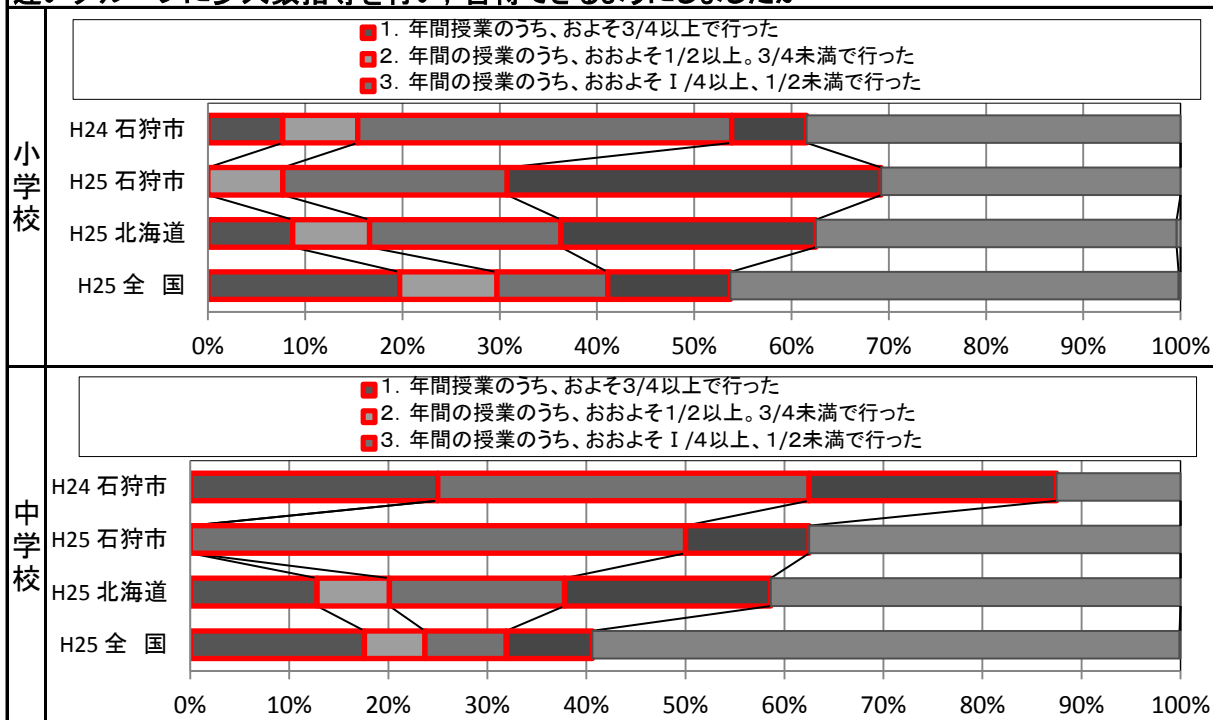


V 習熟度別少人数指導

児童・生徒の習熟状況に応じた対応の推進

児童生徒の習熟度に応じて少人数指導をおこなったのは、小学校で69.3%(全道比+6.8p、全国比+15.6p)、中学校は62.5%(全道比+3.9p、全国比+21.9p)です。児童・生徒の習熟度を把握し、対応に努めています。

9. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにしましたか

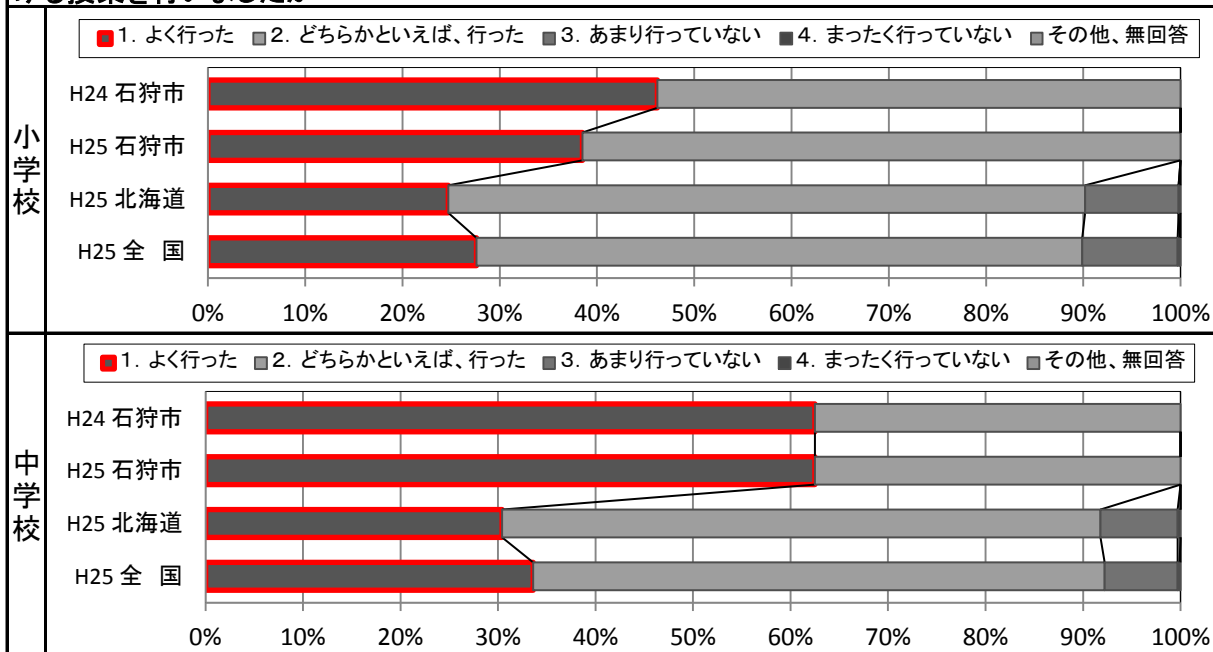


VI 教科の指導方法

教科の特質に注目した指導の改善・推進

① 国語科では「書くこと」の改善に努め、書く習慣をつける授業を「よく行った」のは、小学校で38.5%(全道比+13.8p、全国比+10.9p)、中学校は62.5%(全道比+32.1p、全国比+28.9p)です。小学校、中学校ともに「書くこと」に注目して指導しています。

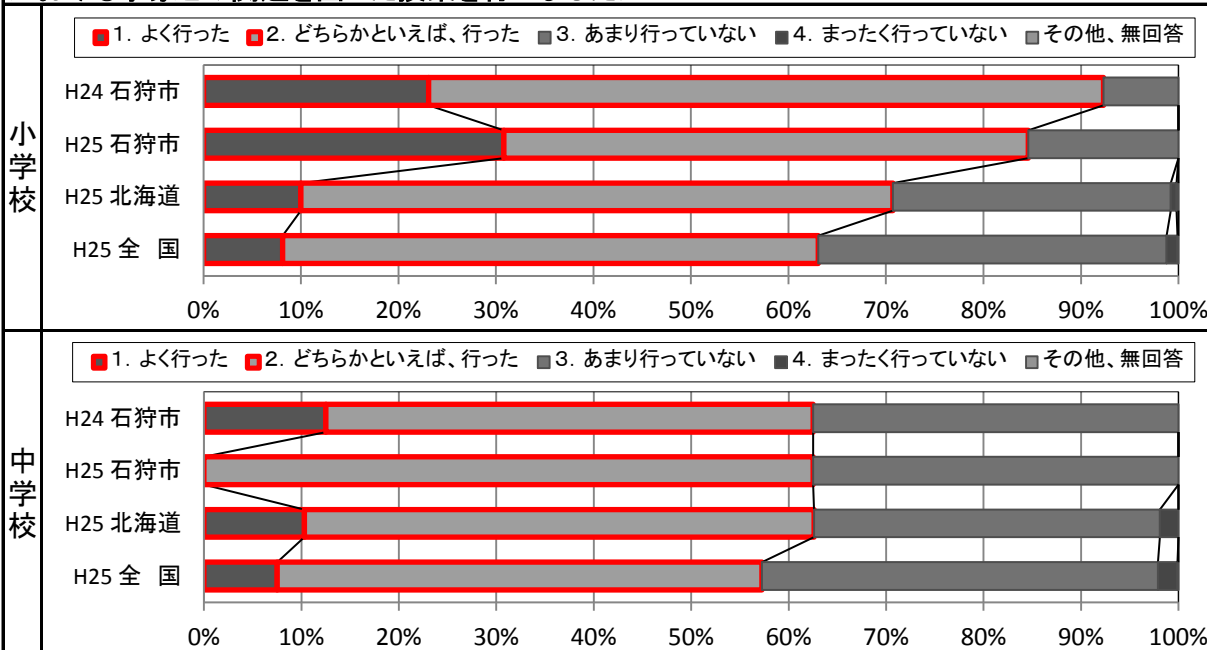
10. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



② 基礎基本事項の応用発展に関連して、実生活における事象との関連を図った授業を「よく行った」「どちらかといえば行った」のは、小学校で84.6%(全道比+13.9p、全国比+21.6p)、中学校は62.5%(全道比-0.1p、全国比+5.3p)です。

全道・全国平均と比べ、小学校は高く、中学校はほぼ同様です。

11. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

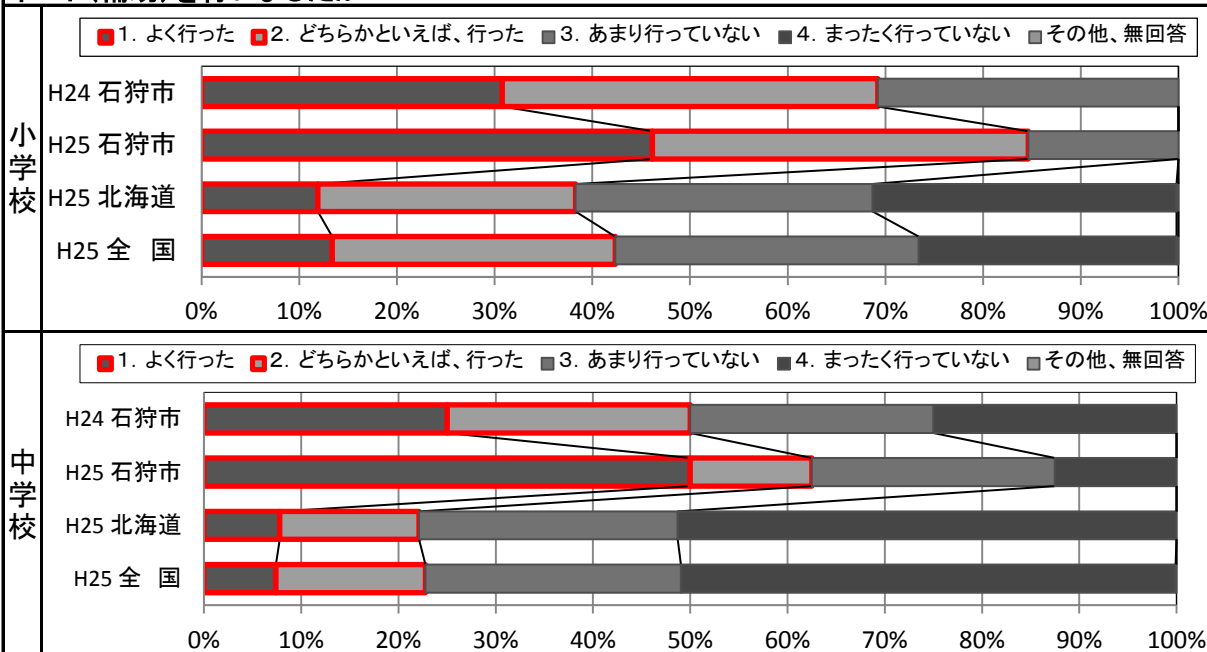


VII 地域人材・施設等の活用

地域と連携した取り組みの推進

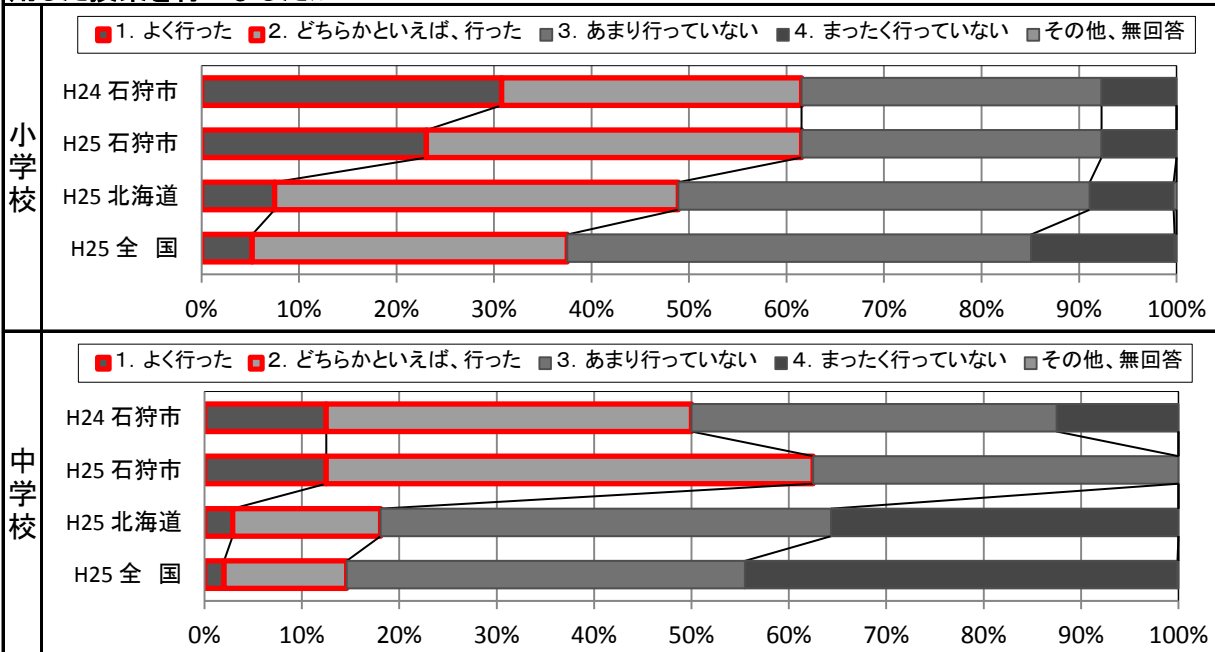
① 地域の人材のボランティア等による授業サポートを「よく行った」「どちらかといえば、行った」は小学校で84.7%(全道比+46.4p、全国比+42.3p)、中学校は62.5%(全道比+40.4p、全国比+39.7p)です。条件の厳しい中でも地域の協力を得て、積極的に取り組まれています。全道・全国平均よりかなり高い割合となっています。

12. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか



② 博物館や科学館、図書館等の施設の活用を「よく行った」「どちらかといえば、行った」のは、小学校で61.6%(全道比+12.7p、全国比+24.1p)、中学校は62.5%(全道比+44.4p、全国比+47.9p)です。施設設備、交通事情等、地域差が課題です。

13. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか

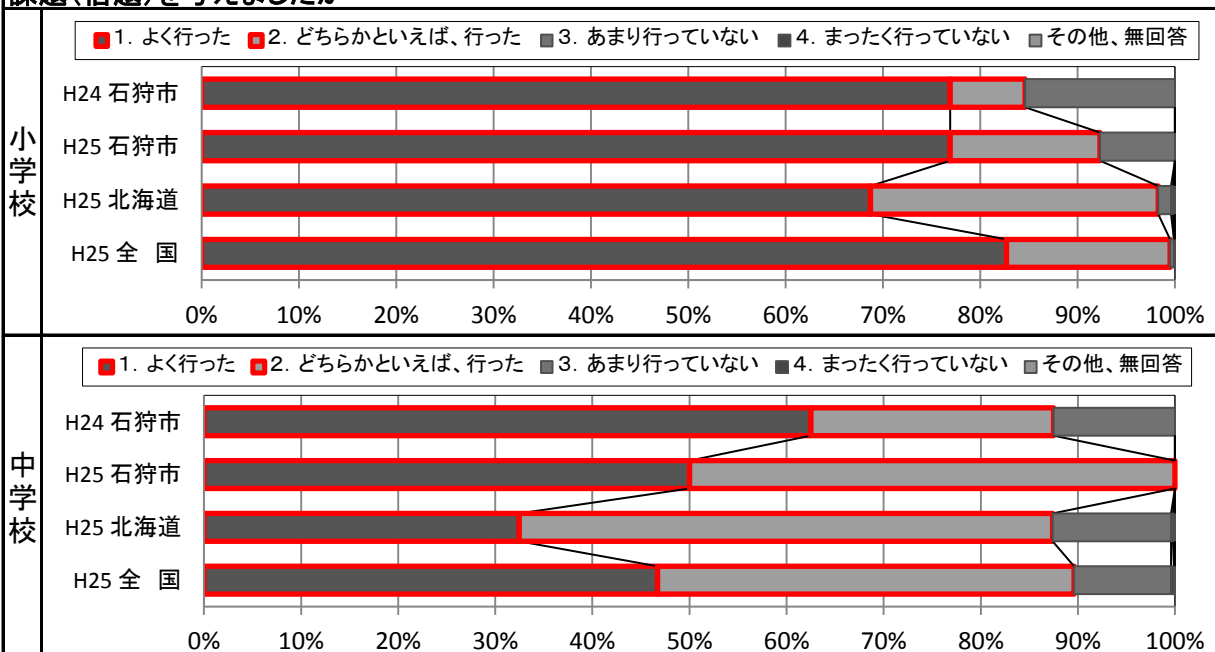


Ⅷ 家庭学習・家庭との連携

家庭学習の重要性と家庭との連携

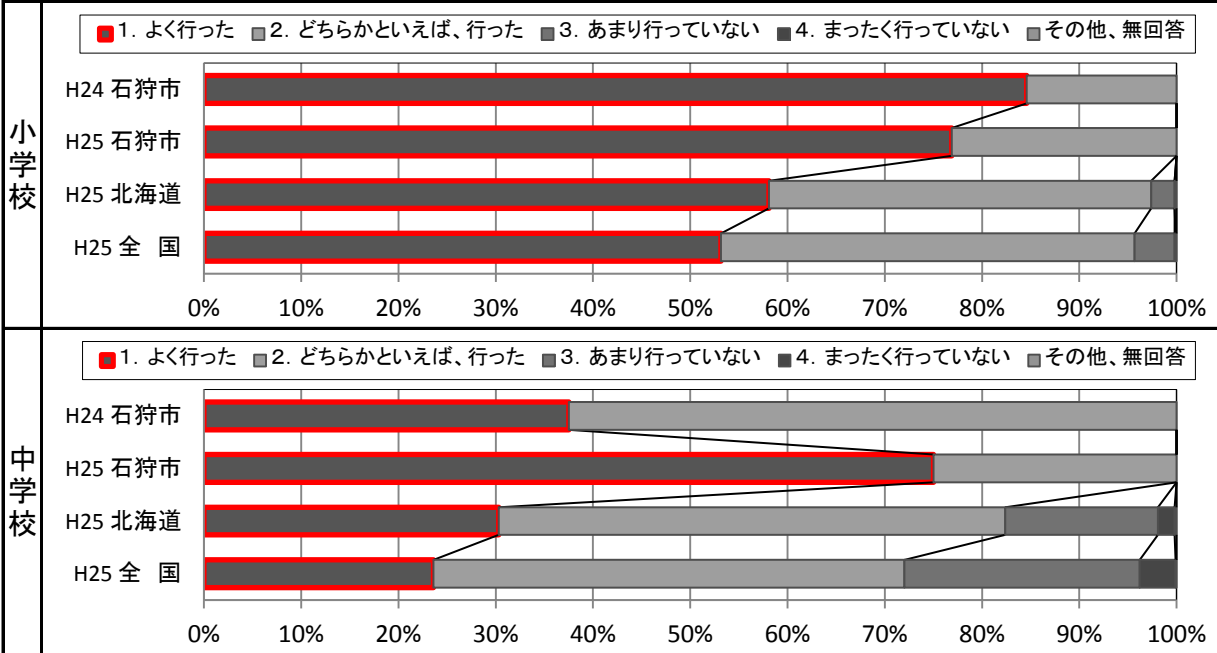
①家庭学習(宿題)について、「よく行った」は、小学校で76.9%(全道比+8.1p、全国比-5.7p)、中学校は50.0%(全道比+17.5p、全国比+3.3p)です。「どちらかといえば、行った」を加えると小学校で92.3%(全道比-6.1p、全国比-7.1p)、中学校は100.0%(全道比+12.5p、全国比+10.4p)です。既習事項の定着・発展には家庭学習が重要な役割を果たすため、家庭学習の与え方、指導法の工夫改善等、さまざまな方法に取り組んでいます。

14. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



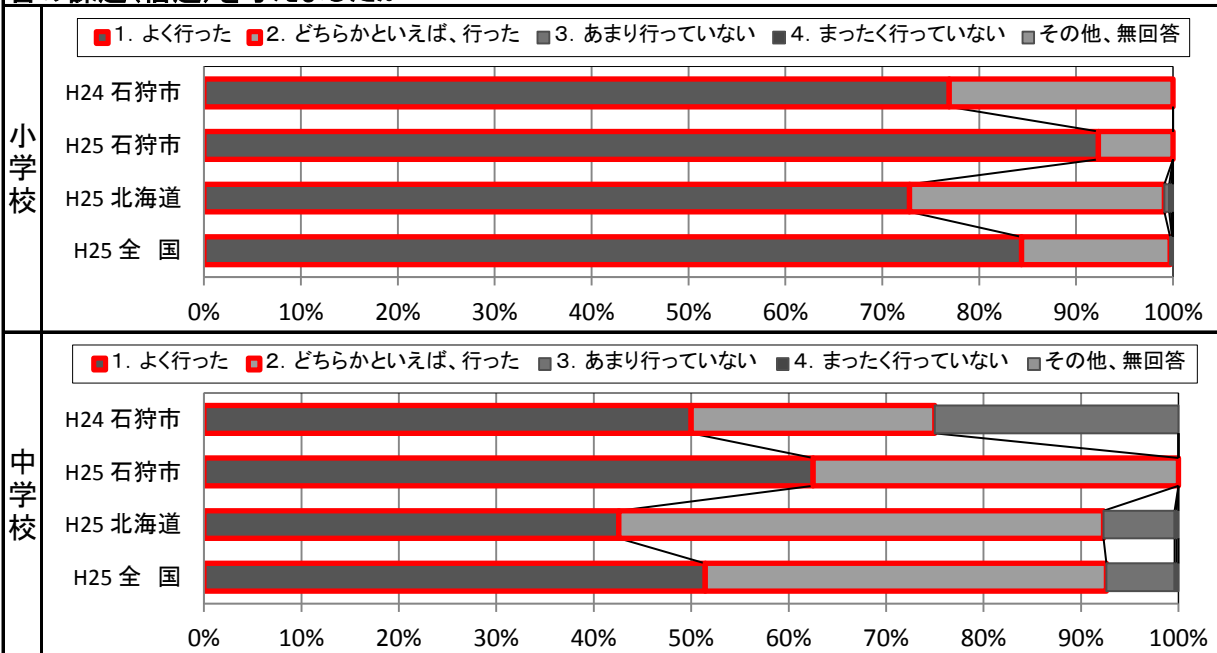
② 国語の家庭学習を促す働きかけを「よく行った」のは、小学校で76.9%(全道比+18.8p、全国比+23.8p)、中学校は75.0%(全道比+44.7p、全国比+51.4p)です。いずれも、全道・全国平均よりも高い結果となっています。

15. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか



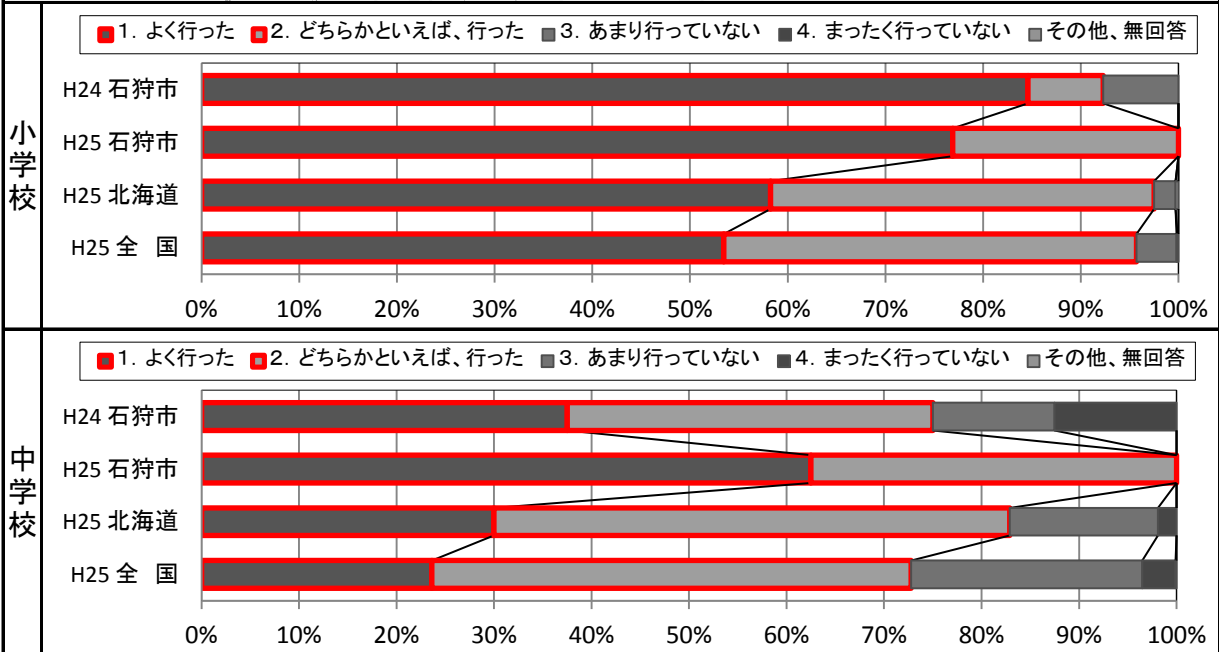
③ 「家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」に対し、「よく行った」は小学校で92.3%(全道比+19.5p、全国比+8.0p)、中学校は62.5%(全道比+19.9p、全国比+11.0p)で、増加しています。「どちらかといえば、行った」も含めると小学校、中学校ともに100.0%の実施率となります。

16. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



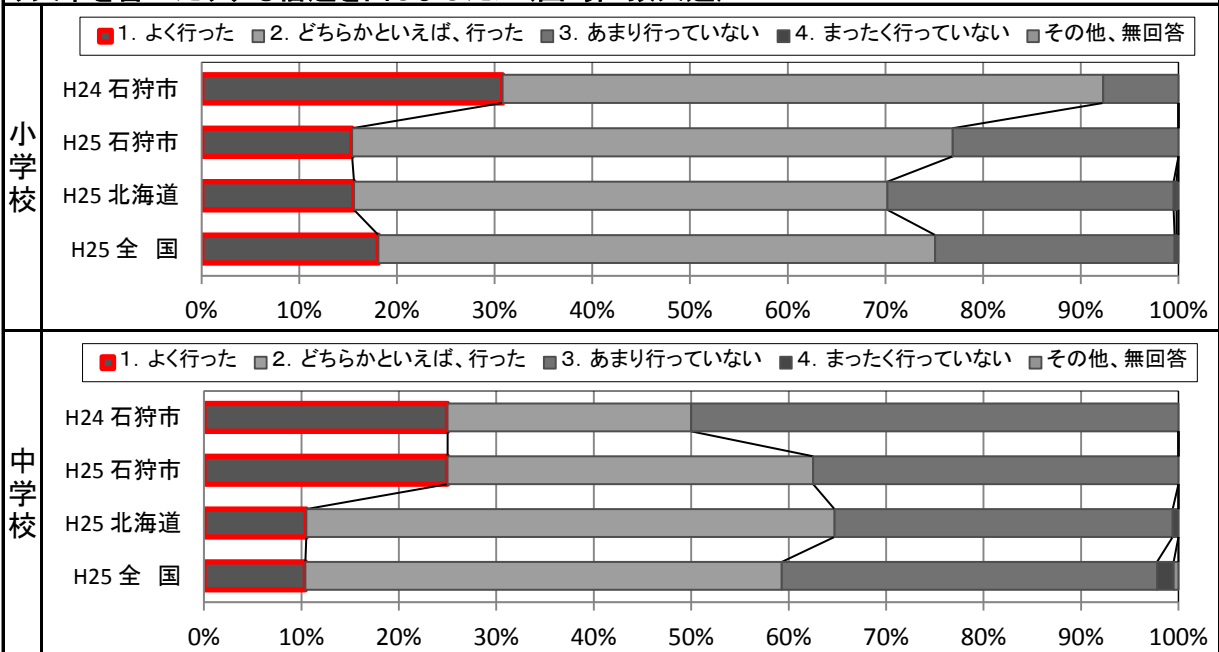
④ 算数・数学の指導として、保護者に対して家庭学習の働きかけを、「よく行った」は小学校で76.9%(全道比+18.6p、全国比+23.5p)、中学校は62.5%(全道比+32.5p、全国比+38.9p)です。「どちらかといえば、行った」とを含めると、ともに100.0%です。家庭学習の大切さの啓発がなされています。

17. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか



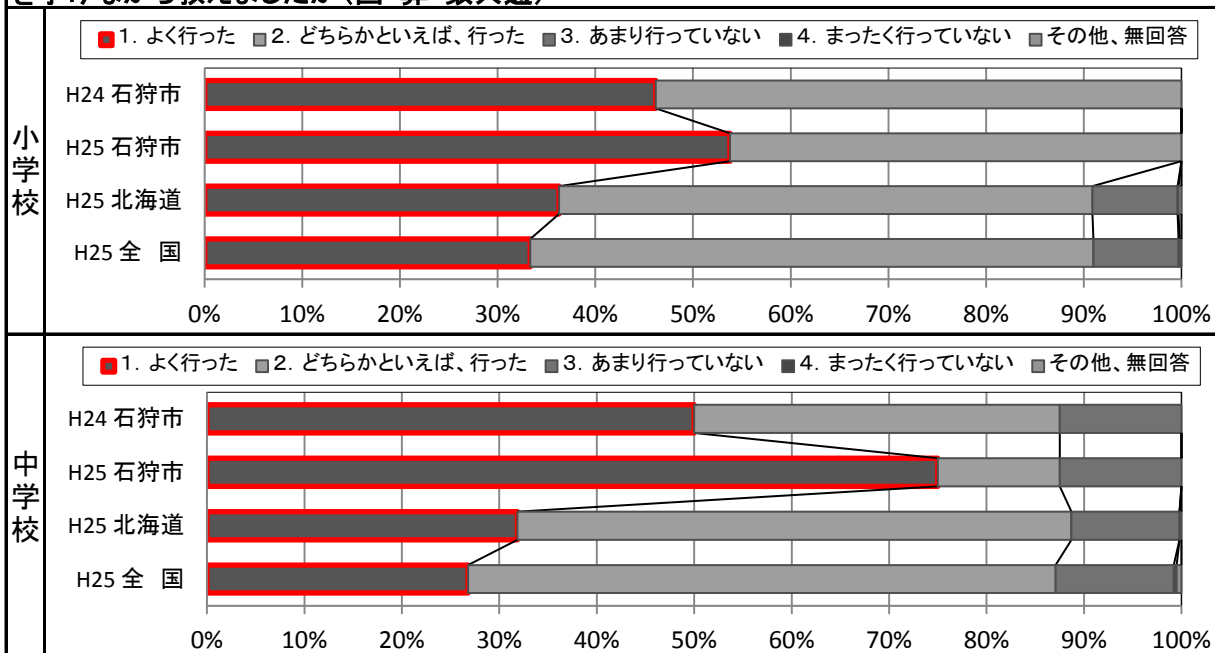
⑤ 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出しましたか」に対し、「よく行った」のは小学校で15.6%(全道比-0.2p、全国比-2.7p)、中学校は25.0%(全道比+14.5p、全国比+14.6p)です。小学校ではほぼ同様、中学校で高くなっていますが、全体的傾向としてはまだ改善すべき余地があります。

18. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出しましたか(国・算・数共通)



⑥ 「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」に対して、「よく行った」のは小学校で53.8%(全道比+17.5p、全国比+20.5p)、中学校は75.0%(全道比+43.1p、全国比+48.2p)です。小学校、中学校ともに全道平均より高い結果になっています。

19. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか(国・算・数共通)



< 報告事項 2 > 奨学金制度に関するアンケートについて

実施期間：平成 25 年 6 月 21 日（金）～7 月 12 日（金）

調査依頼先：道内 35 市

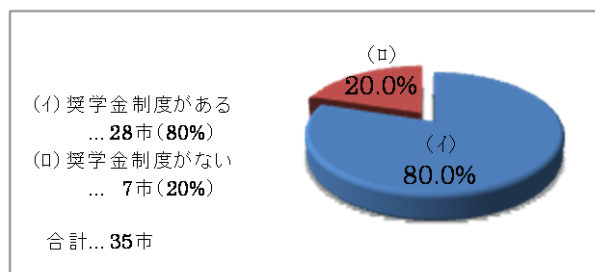
回答方法：郵送または mail により提出

回答数：道内 35 市（回答率 100%）

Q1. 奨学金制度の有無について

道内 35 市のうち、奨学金制度を持っている市は、28 市（80.0%）あり、制度を持っていない市は、7 市（20.0%）でした。

道内市では、8 割にあたる 28 市が奨学金制度を持っており、1 市で複数の制度を持っている市もあるため、事業数としては、34 事業ありました。

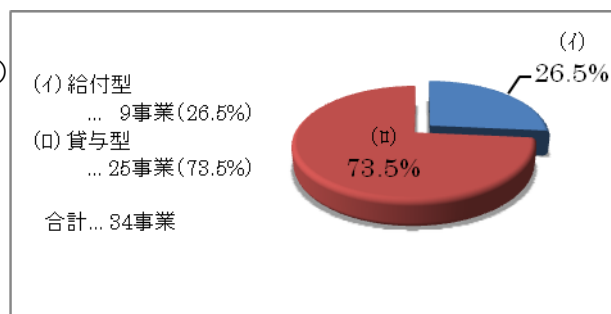


	市	事業	給付型	貸与型
給付型制度のみ	6	6	6	0
貸与型制度のみ	19	21	0	21
両方の制度	3	7	3	4
合 計	28 市	34 事業	9 事業	25 事業

Q2. 奨学金の種別について

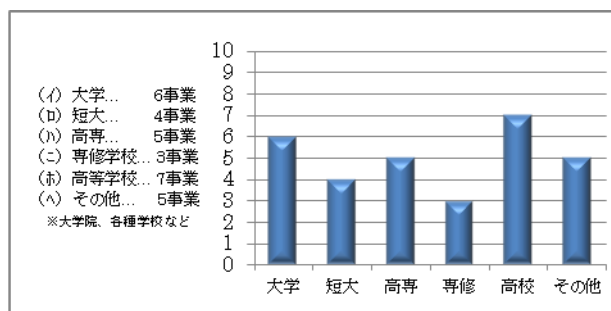
奨学金制度 34 事業のうち、給付型が 9 事業（26.5%）貸与型が 25 事業（73.5%）でした。

道内市が実施している奨学金制度の約 73%は、貸与型でした。



Q3. 奨学生の対象者について(給付型事業)

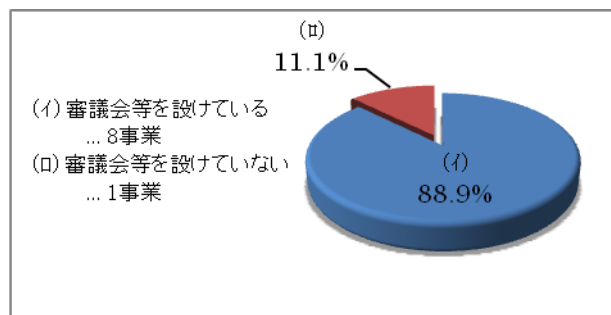
給付型の 9 事業のうち、奨学生の対象者を学校種別に分けると、大学が 6 事業、短大が 4 事業、高専が 5 事業、専修学校が 3 事業、高等学校が 7 事業、その他が 5 事業でした。



Q4. 審議会等の有無について(給付型事業)

給付型の 9 事業のうち、奨学生を選考するために審議会等の機関を設けているのは、8 事業（88.9%）、設けていないのは、1 事業（11.1%）でした。

給付型の奨学金制度の約 89%が審議会等を設けておりました。



< 報告事項 3 >

科学の祭典 in 石狩 2013 の開催について

1. ねらい

- (1) 理科離れが叫ばれている今日、地域子ども達をはじめとする市民に広く科学に触れ親しむ場を作る。
- (2) 科学の楽しさや魅力を体験できる機会として、地域で活動する指導者によるブースをはじめ、教員・大学生・高校生・市民や地域の企業と行政（児童館・図書館・公民館・資料館など）が一体となって、多彩なアプローチを創出する。
- (3) 関係者相互ネットワークの強化を図り、地域における科学的資源の掘り起こしによる地域づくりを目指す。

2. 主 催

科学の祭典 in 石狩実行委員会

（構成）サイエンスアイ・石狩市校長会・石狩市教頭会・石狩教育振興会・北海道石狩翔陽高等学校・北海道石狩南高等学校・NPO 法人教育支援協会北海道・石狩ユネスコ協会・藤女子大学科学研究会・保健福祉部こども室児童館・市民生活部環境室環境課・教育委員会生涯学習部社会教育課・いしかり砂丘の風資料館・石狩市民図書館

3. 開催期日

平成25年11月17日（日） 10:00～15:00

4. 会 場

- (1) こども未来館「あいぽーと」
- (2) 石狩市民図書館

5. 内 容

- (1) メインステージ：参加者全員で楽しむ見学主体のコーナー（1日2回）
 - 空気の力の不思議（千歳科学技術大学「理工工房」）
- (2) ブース：比較的短時間の実験や体験ができるコーナー（20ブース）
 - 光通信（千歳科学技術大学「理工工房」）
 - 風のパワーを活用しよう！（NPO 法人北海道グリーンファンド）
 - 生き物を楽しく学べるトランクキット～CISE ネットの活動紹介～（北海道大学総合博物館）
 - 超電導の不思議：磁力編～超伝導になると宙に浮く？
（石狩市市民生活部環境室低炭素社会推進新エネルギー対策担当参事）
 - 超電導（ちょうでんどう）のふしぎ～永久に流れ続ける電気とは？～（サイエンスアイ）
 - 糸電話を作ってみよう（伝承あそびボランティアおてだま）
 - サンタが贈るブルブル共振実験（札幌第一高等学校）
 - 香りが選べる！色が選べる スーパーボール作り！（北海道石狩翔陽高等学校科学部 OG 会）
 - ミジンコの観察（北海道石狩翔陽高等学校生物部）
 - 秋の自然をつかって（石狩市立南線小学校）ほか